

堺市域・泉州北ブロック付近の 組合せ見直し 検討資料

《留意事項》

○本資料は、今後の計画見直しの際の参考資料として取り扱う。

広域化対象市町村の組合せ見直しについて①：基本的な考え方

1 見直しに関する基本的な考え方

- 現行計画の目標年次までの途中段階であるため、計画の全面的な見直しはしない（一部改定）
 - ➔ 将来像（府内消防の一元化）に向け、段階的に進めていく という方向性は変えない
 - ➔ 「おおむね10年後」= 現行計画策定時（H31年3月）からおおむね10年後（R11年3月） という目標年次は従前どおり
- 広域化等の進展と基本指針の改正内容を考慮し、現行の8ブロックを超えた動きがある地域を中心に見直しを行う
 - ➔ 南河内北・新南河内ブロック付近の地域……大阪南、松原市、大阪市【今回諮問対象地域】
 - ➔ **堺市域・泉州北ブロック付近の地域……堺市域、泉州北ブロック、泉州南ブロック**
- スケールメリットの観点から、現行ブロックから規模を小さくする方向での見直しは行わない

2 組合せ検討時の考慮事項（総論）

■ 消防本部間のつながり

- ➔ 府下消防長会のブロック、連携・協力状況（現状＋将来的な関係性の構築）、管轄を越えた出動の多さ、日常のつながり 等

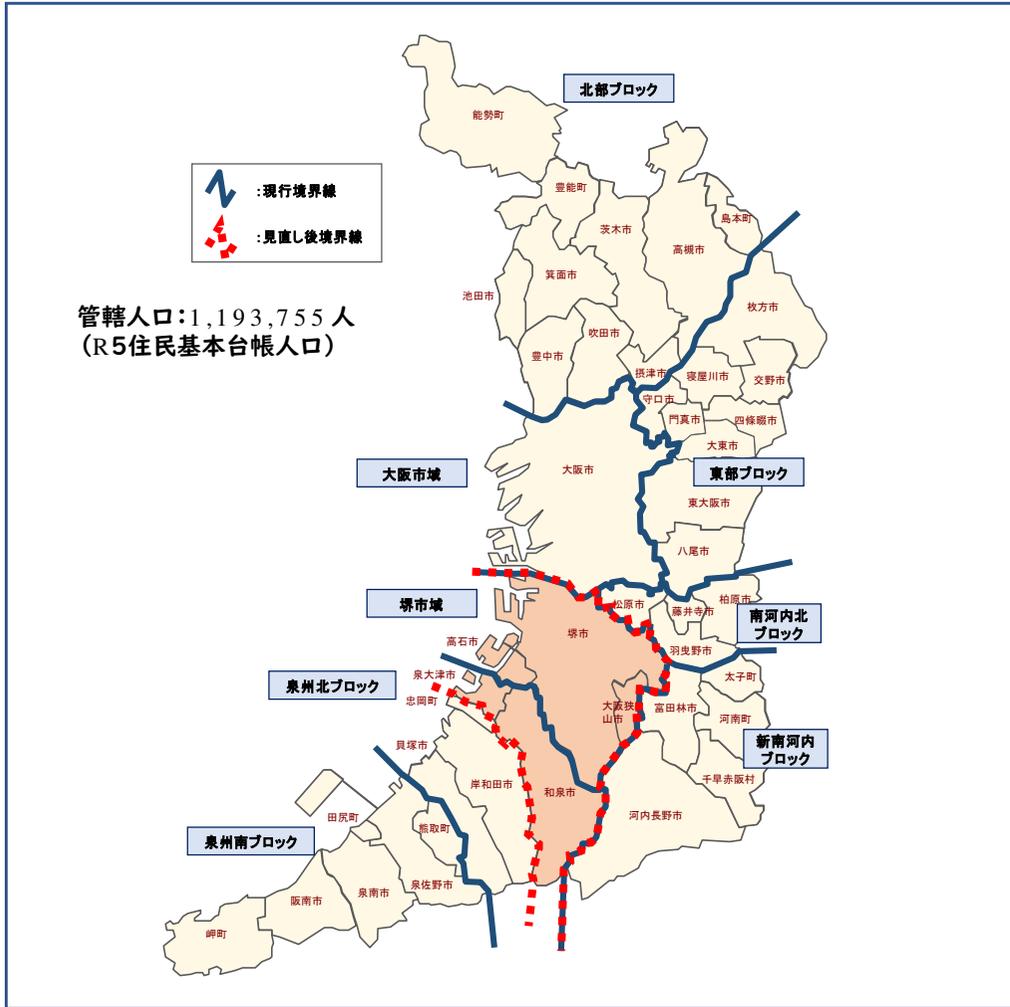
■ 地勢的な結びつき

- ➔ 幹線道路ネットワーク、管轄地域の類似性・連続性

■ 現況調査・ヒアリング結果

広域化対象市町村の組合せ見直しについて②：堺市域・泉州北ブロック付近の組合せ案（1/3）

案2-1①：堺市域+和泉市+泉大津市



案2-1②：忠岡町+岸和田市+貝塚市



考慮事項

- 連携・協力状況（R6.4はしご：堺+泉大津、R6.12指令：堺+和泉）
- 府下広域消防相互応援協定（南ブロック）
- 堺・和泉・泉大津間で、管轄を超えた救急出動が多い
- 臨海部の石油コンビナート、幹線道路ネットワーク（同右）
- 堺に中心消防本部を期待する意見

考慮事項

- 連携・協力状況（指令台：岸和田+忠岡、高度運用あり）
- 府下広域消防相互応援協定（南ブロック）
- 管轄地域の類似性（沿岸部と山間部をもつ）
- 幹線道路ネットワーク（阪和自動車道・阪神高速湾岸線・国道26号）

案2-1③：忠岡町+岸和田市+貝塚市+泉州南ブロック

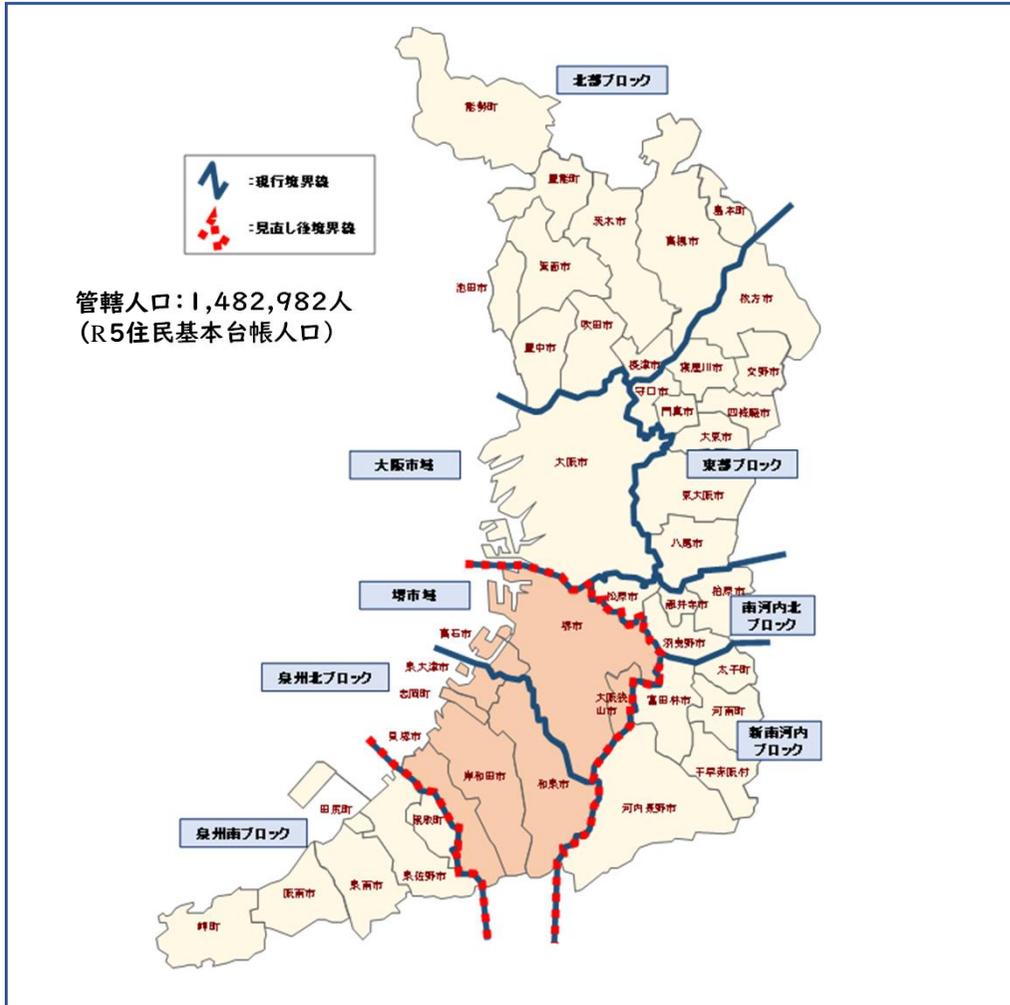


考慮事項

- 連携・協力状況（指令台：岸和田+忠岡、高度運用あり）
- 府下広域消防相互応援協定（南ブロック）
- 泉州南→貝塚間で、管轄を超えた救急出動が多い
- 管轄地域の類似性（沿岸部と山間部を持つ）
- 幹線道路ネットワーク（阪和自動車道・阪神高速湾岸線・国道26号）

広域化対象市町村の組合せ見直しについて④：堺市域・泉州北ブロック付近の組合せ案（3/3）

案2-2：堺市域+泉州北ブロック



案2-3：堺市域+泉州北ブロック+泉州南ブロック



考慮事項

- 連携・協力状況（堺+泉大津、堺+和泉、岸和田+忠岡）
- 府下広域消防相互応援協定（南ブロック）
- 堺・和泉・泉大津間で、管轄を超えた救急出動が多い
- 堺に中心消防本部を期待する意見
- ブロックに堺が入ることを期待する意見 など

考慮事項

- 同左
- 泉州南→貝塚間で、管轄を超えた救急出動が多い

広域化対象市町村の組合せ見直しについて⑤：関係団体の主な意見

組合せに関する主な意見

【案2-1①】堺市域＋和泉市＋泉大津市】と【案2-1③】忠岡町＋岸和田市＋貝塚市＋泉州南ブロック

- 【案2-3】で進めるべきと考えるが、一足飛びでの広域化は困難であることから、【案2-1①】【案2-1③】でまず広域化を実施することが現実的。
- 目標年次(R11年3月)からの現実的な目標としては、まず【案2-1①】【案2-1③】での広域化を進めるべき。

【案2-2】堺市域＋泉州北ブロック

- 泉州北ブロックを分割することなく、堺市消防局を中心とする、堺市域＋泉州北ブロックの【案2-2】が適当。
- 【案2-2】の方が、スケールメリットが大きく、今後広域化を検討協議していくうえで望ましい。
- シミュレーションの結果比較から最も効果が高いと考えられる。
- 【案2-2】が広域化による効果をより期待できると考えられる。

見直し・検討等に関する主な意見

- 隣接市やブロックを超えた広域化についての議論が十分なされていない現時点で、ブロックの見直しを選択する状況ではない。
- 広域化に関する要望はなく、広域化に関するメリットについても検討を行っていない。
- 単独で消防体制が構築できていることから、ブロックを超えて広域化することによる職員の業務の専従化（複数の業務の掛け持ちの解消）や第一出動体制の強化（災害時に出勤できる車両の台数の増強）等の効果は見込めない。
- 組織の充実が図られているなか、人員及び機械等の適正配置にも取組まれており、直ちにブロックを再編する必要はない。
- 推進計画の目標年度（令和11年3月）の途中段階で、新たな広域構想は時期尚早。
- 本来は一元化をめざすべきだが、段階的な広域化が進まないと、一元化はできないことは理解。
- 持続可能な消防行政とするため、まずは、連携・協力をを行い合理化に取り組むことが最優先。
- 指令業務の連携・協力については、財政的な面から検討の余地はある。
- 消防広域化は、さまざまな観点から検証をするべき。必ずしも今回の検証結果どおりにはならない可能性がある。
- 広域化協議の際は、府の政策部局（市町村課）等と消防保安課との認識共有、府の政策部局から各市町の政策部局等への説明・支援等を行ってほしい。
- ブロックでの指令台の共同運用を視野に入れた記載も検討してほしい。

(参考) 広域化シミュレーション

《堺市域・泉州北ブロック付近》

《留意事項》

- 本シミュレーションは、広域化対象市町村の組合せ(ブロック)見直しの参考とするため、大阪府が独自で行ったものである。
- 道路交通状況や消防車両の運用実態等を考慮していないため、実際の効果とは異なる可能性がある。
- 実際に広域化を行うにあたっては、本シミュレーションの内容に限らず、様々な観点から検証を行う必要がある。

1 広域化シミュレーションの概要

シミュレーション1：現場到着時間の短縮化

➤ 広域化により、管轄区域を超えた消防活動が可能となった場合の

①現場到着時間が早くなる地域数 ②短縮時間（1分以下～3分超） ③当該地域の居住者数 をシミュレーション

【シミュレーションの前提】

- ・ 5年以内の建替え予定（住所把握分）を反映
- ・ 消防署所の位置ベースでのシミュレーション
- ・ 総務省統計局「令和2年国勢調査」5次（250m）メッシュを使用
- ・ 道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、**実際の効果発現地域とは異なる可能性がある**

シミュレーション2：5分以内に到達可能な署所数

➤ 広域化により、管轄区域を超えた消防活動が可能となった場合の

①5分以内に到達可能な署所が増える地域 ②増加署所数（1箇所～4箇所以上） ③当該地域の居住者数 をシミュレーション

【シミュレーションの前提】

- ・ 上記1と同じ

シミュレーション3：第一出動体制の強化

➤ 広域化により、より多くの車種・車両を確保可能となった場合の

①第一出動体制（車種・車両台数） ②①と同じ規模で、どれだけの出動可能隊数を編成できるか（複数事案への対応可能性） をシミュレーション

【シミュレーションの前提】

- ・ 市街地における普通建物火災への第一出動体制
- ・ **車両の配置状況・運用実態・乗組員数は考慮せず、保有車両種別・台数のみから算出**
- ・ ポンプ車には、タンク車・水槽車を含む
- ・ 広域化後の第一出動体制は、車種ごとに各本部の車両台数を比較し、車種ごとの最多台数を選択する方法で構成
- ・ 広域化後の編成可能隊数は、現有の車両総台数を、広域化後の第一出動体制で割り戻して算出

シミュレーション4：年齢構成の変化

➤ 広域化により、より多くの人員を確保可能となった場合の ①総職員数 ②年齢構成 をシミュレーション

【シミュレーションの前提】

- ・ 特になし

2 広域化シミュレーションの前提①

(1) 所要時間の計算方法 (現場到着時間の短縮化・5分以内に到達可能な消防署所数関係)

「消防署所からの現場到着時間の短縮化」及び「5分以内に到着可能な消防署所数」のシミュレーションでは、GISを用いて消防署所から各地点までの所要時間を計算して効果を算出している。その時間計測の方法は下記のとおり。

① 発地

- ・ 消防署所のうち5年以内に建て替え予定で住所が把握できているものは建て替え後の住所とする。
- ・ 住所未定の場合は、現住所によるものとする。

② 着地

- ・ 総務省統計局「令和2年国勢調査」5次(250m)メッシュのうち、メッシュ中心が大阪府内に位置するメッシュを対象とし、各メッシュ中心までの所要時間を測定する(居住者がいないメッシュを含む)。

③ 道路データ

- ・ 三井E&S システム技研株式会社「TMI 道路地図V2023」データによる(データ取得年月:2023年9月)。

④ 速度設定条件

- ・ 規制速度が設定されている区間は、規制速度とする。
- ・ 規制速度が設定されていない区間は、道路幅員に応じて以下のとおりとする：

道路幅員	速度
13.0m以上	50km/h
5.5m以上～13.0m未満	40km/h
3.0m以上～5.5m未満	30km/h
3.0m未満	20km/h

⑤ 計測される時間

- ・ 所要時間計測システムでは、計算結果は四捨五入され分単位で算出される(X分29秒まではX分、X分30秒以上はX+1分)。
- ・ 統合前後それぞれでの所要時間を算出し、両者の引き算によって効果を算定している。
- ・ また、交通量の状況や交差点の多寡などは加味されていない。
- ・ これらを要因として、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある。

2 広域化シミュレーションの前提②

(2) シミュレーションの考え方 (第一出動体制の強化関係)

① シミュレーションの前提条件

- **市街地における普通建物火災への第一出動体制**についてシミュレーションを実施
- **各本部・署所の車両配置状況や車両の運用実態 (例：救助工作車の代わりにポンプ車を使用する等)、乗組員数は考慮しておらず、保有車両種別・台数 (※) のみから算出**
 - (※) 「令和4年度消防施設整備計画実態調査」の各本部の整備数を使用
- 現状の第一出動体制 (車両台数) は、大阪府の調査に対する各本部の回答結果 (令和6年4月1日時点) を踏まえたもの (ポンプ車には、タンク車、水槽車を含む)
- 対象車両は、ポンプ車・救急車・はしご車・救助工作車・指揮車であるが、「普通建物火災」に係る厳密な定義がないため、**各本部の判断により、一部の車両 (例：はしご車) が第一出動体制に含まれない場合がある**

② 広域化後の第一出動体制の考え方

- 広域化後の第一出動体制は、**車種ごとに各本部の車両台数を比較し、車種ごとの最多台数を選択**する方法で構成している (広域化後の実情を踏まえた車両台数の考慮はしていない)
- 広域化後の編成可能隊数は、「広域化後の車両計」 (各本部の保有車両台数合計) を、広域化後の第一出動体制で割り戻して算出

3 広域化シミュレーションの結果比較 (1/4)

シミュレーション1：現場到着時間の短縮化

- 同一範囲 (※) で比較した場合、泉州北ブロックを分けない案の方が、広域化により、泉州北ブロックで現場到着時間が短縮化される地域が多い。
 (※) 堺から泉州北ブロックまで：【案2-1①②】と【案2-2】、堺から泉州南ブロックまで：【案2-1①③】と【案2-3】 (⇒住民サービスが向上する地域が多い)
- 泉州北ブロックを分けない案の中では、
 - ・ 泉州北ブロックの短縮地域数が最も多くなるのは【案2-3】だが、
 - ・ 広域化の規模を大きくすることに伴う効果の違い (短縮地域数の伸び) が最も現れるのは【案2-2】である。

		短縮時間	短縮地域数 (250mメッシュの数)	短縮地域人口	比較結果	
【案2-1①】	泉州北ブロックを分ける	堺市域	1分以下～3分超	61メッシュ	512人	
		和泉市	1分以下～3分超	53メッシュ	20,094人	
		泉大津市	1分以下～3分以下	31メッシュ	11,985人	
忠岡町		1分以下～2分以下	11メッシュ	3,862人		
岸和田市		1分以下～3分超	45メッシュ	283人		
貝塚市		1分以下～3分超	29メッシュ	5,804人		
【案2-1②】	泉州北ブロックを分ける	忠岡町	1分以下～2分以下	11メッシュ	3,862人	
		岸和田市	1分以下～3分超	45メッシュ	283人	
		貝塚市	1分以下～3分超	39メッシュ	8,093人	
		泉州南	1分以下～3分超	64メッシュ	226人	
【案2-1③】	泉州北ブロックを分ける	忠岡町	1分以下～2分以下	11メッシュ	3,862人	
		岸和田市	1分以下～3分超	45メッシュ	283人	
		貝塚市	1分以下～3分超	39メッシュ	8,093人	
		泉州南	1分以下～3分超	64メッシュ	226人	
【案2-2】	泉州北ブロックを分けない	堺市	1分以下～3分超	61メッシュ	512人	○ 地域数の伸びが最大
		泉州北	1分以下～3分超	269メッシュ (案2-1①②比 +100)	54,151人	
【案2-3】		泉州北ブロックを分けない	堺市	1分以下～3分超	61メッシュ	512人
	泉州北		1分以下～3分超	279メッシュ (案2-2比+10)	56,440人	
	泉州南		1分以下～2分以下	64メッシュ	226人	

3 広域化シミュレーションの結果比較 (2/4)

シミュレーション2：5分以内に到達可能な署所数

- 同一範囲 (※) で比較した場合、泉州北ブロックを分けない案の方が、広域化により、泉州北ブロックで5分以内に到達可能な消防署所が増える地域が多い。
(※) 堺から泉州北ブロックまで：【案2-1①②】と【案2-2】、堺から泉州南ブロックまで：【案2-1①③】と【案2-3】 (➡住民サービスが向上する地域が多い)
- 泉州北ブロックを分けない案の中では、
 - ・ 泉州北ブロックの **増加地域数が最も多くなるのは【案2-3】**だが、
 - ・ 広域化の規模を大きくすることに伴う効果の違い (**増加地域数の伸び**) が最も現れるのは【案2-2】である。

			増加署所数	増加地域数 (250mメッシュの数)	増加地域の人口	比較結果
【案2-1①】	泉州北ブロックを分ける	堺市域	1～2	168メッシュ	79,535人	
		和泉市	1～4以上	228メッシュ	94,944人	
		泉大津市	1～4以上	142メッシュ	70,559人	
【案2-1②】		忠岡町	1～4以上	61メッシュ	16,567人	
		岸和田市	1～3	347メッシュ	113,621人	
		貝塚市	1～4以上	142メッシュ	41,903人	
【案2-1③】		忠岡町	1～4以上	61メッシュ	16,567人	
		岸和田市	1～3	347メッシュ	113,621人	
	貝塚市	1～4以上	281メッシュ	72,596人		
	泉州南	1～2	197メッシュ	45,435人		
【案2-2】	泉州北ブロックを分ける	堺市域	1～3	168メッシュ	79,535人	○ 地域数の伸びが最大
		泉州北	1～4以上	1,200メッシュ (案2-1①②比 +280)	405,032人	
【案2-3】	泉州北ブロックを分けない	堺市域	1～3	168メッシュ	79,535人	○ 地域数が最多
		泉州北	1～4以上	1,339メッシュ (案2-2比 +99)	435,725人	
		泉州南	1～2	197メッシュ	45,435人	

3 広域化シミュレーションの結果比較 (3/4)

シミュレーション3：第一出動体制の強化

➤ 広域化により、

- ・ 第一出動体制の **車両台数が最も多くなるのは【案2-3】**だが、
- ・ **編成可能部隊数（複数災害への同時対応体制）を最も多く確保できるのは【案2-2】**である。

	編成可能部隊数	第一出動台数	比較結果
【案2-1①】 堺市域 和泉市 泉大津市	堺市域 5 隊 和泉市 1 隊 泉大津市 1 隊 →【広域化後】7 隊	堺市域 8 台 和泉市 7 台 泉大津市 6 台 →【広域化後】8 台	
【案2-1②】 忠岡町 岸和田市 貝塚市	忠岡町 1 隊 岸和田市 1 隊 貝塚市 1 隊 →【広域化後】2 隊	忠岡町 3 台 岸和田市 7 台 貝塚市 6 台 →【広域化後】7 台	
【案2-1③】 忠岡町 岸和田市 貝塚市 泉州南	忠岡町 1 隊 岸和田市 1 隊 貝塚市 1 隊 泉州南 1 隊 →【広域化後】2 隊	忠岡町 3 台 岸和田市 7 台 貝塚市 6 台 泉州南 9 台 →【広域化後】9 台	
【案2-2】 堺市域 泉州北	堺市域 5 隊 泉州北各 1 隊 →【 <u>広域化後</u> 】9 隊	堺市域 8 台 泉州北 3～7 台 →【 <u>広域化後</u> 】8 台	○ 編成可能 部隊数が最多 (複数災害に対応可能)
【案2-3】 堺市域 泉州北 泉州南	堺市域 5 隊 泉州北各 1 隊 泉州南 1 隊 →【 <u>広域化後</u> 】6 隊	堺市 8 台 泉州北 3～7 台 泉州南 9 台 →【 <u>広域化後</u> 】10 台	○ 第一出動 台数が最多

3 広域化シミュレーションの結果比較 (4/4)

シミュレーション4：年齢構成の変化

➤ 広域化により、

- ・ 消防吏員数が最も多くなるのは【案2-3】だが、
- ・ 多様な年齢層を確保できるとともに、年齢構成のバランスをとることができるのは【案2-2】である。

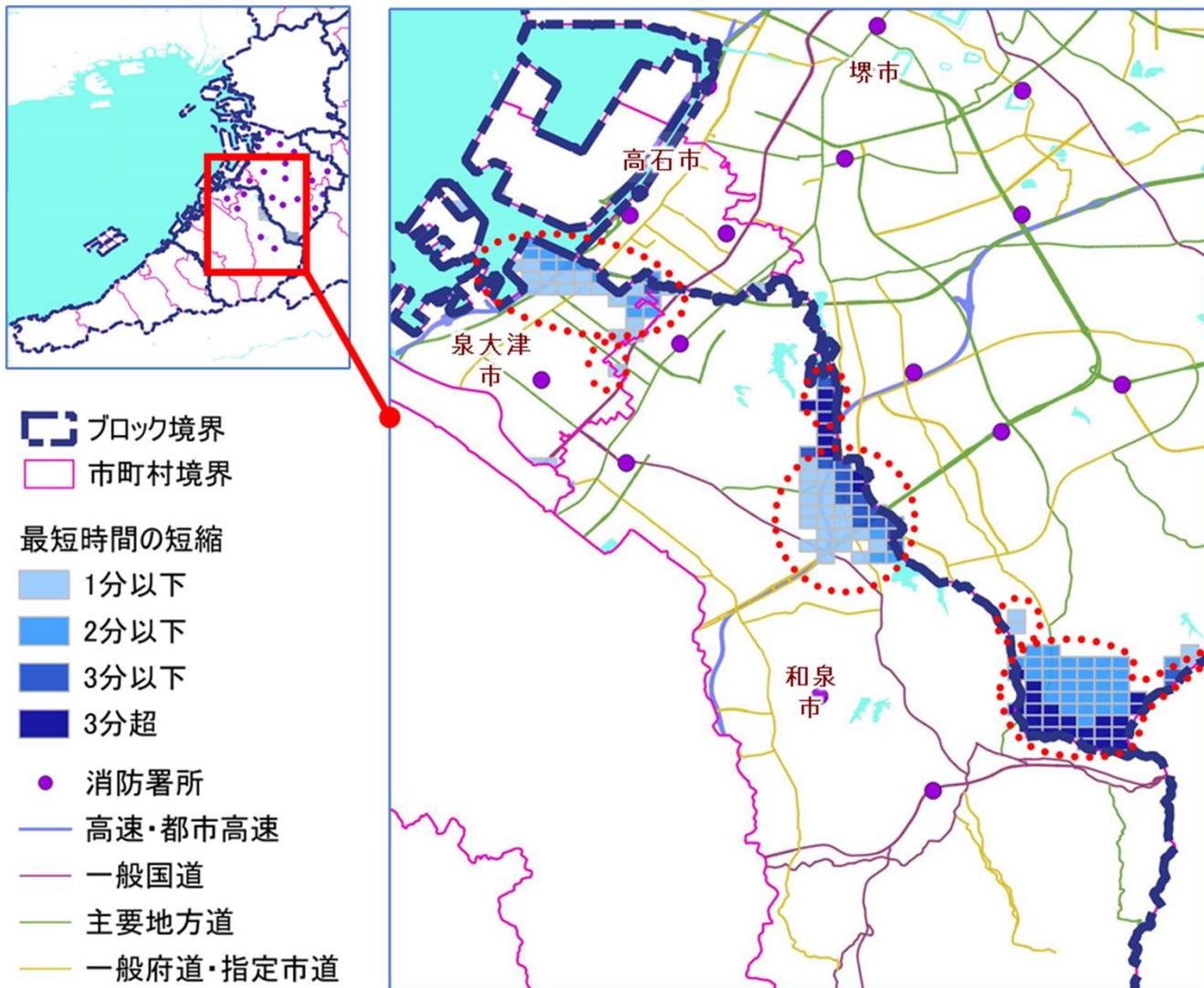
		現状		広域化後		比較結果
【案2-1①】	堺市域	1,056人	40代後半・50代が少ない	1,310人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0人の年齢層がなくなる ・ 30代の層が厚くなる ・ 40代後半・50代が少ない 	
	泉大津市	85人	40代後半・50代前半に0人層が多い			
	和泉市	169人	40代後半・50代が少ない			
【案2-1②】	忠岡町	40人	30代後半・40代・50代に0人層が多い	335人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0人の年齢層がなくなる ・ 30代後半・40代前半が少ない 	
	岸和田市	201人	30代後半・40代前半が少ない			
	貝塚市	94人	30代後半・40代前半に0人層が多い			
【案2-1③】	忠岡町	40人	同上	720人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0人の年齢層がなくなる ・ 20代、40代後半・50代前半の層が厚くなる ➡40代後半・50代前半の割合が高い（山が高い） 	
	岸和田市	201人	同上			
	貝塚市	94人	同上			
	泉州南	385人	30代が少ない			
【案2-2】	堺市域	1,056人	同上	1,645人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0人の年齢層がなくなる ・ 20代・30代、40代後半・50代の層が厚くなる ➡<u>20代・30代の割合が高い</u>（山が高い） 	○ 年齢構成のバランス
	泉州北	589人	各本部の現状は、同上			
【案2-3】	堺市域	1,056人	同上	<u>2,030人</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0人の年齢層がなくなる ・ 20代・30代、40代後半・50代の層が厚くなる 	○ 吏員数が最多
	泉州北	589人	各本部の現状は、同上			
	泉州南	385人	同上			

堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション①

シミュレーション 1 : 消防署所からの現場到着時間の短縮化

案 2 - 1 ① : 堺市域 + 和泉市 + 泉大津市

【現場到着時間が短縮化する地域】



【現場到着時間が短縮化する地域の人口】



【現場到着時間が短縮化する地域の数(メッシュ数)】

短縮時間	メッシュ数		
	堺市域	和泉市	泉大津市
1分以下	7	25	17
2分以下	31	3	13
3分以下	1	16	1
3分超	22	9	—
合計	61	53	31

※黄セル: 居住者がいないメッシュを含む

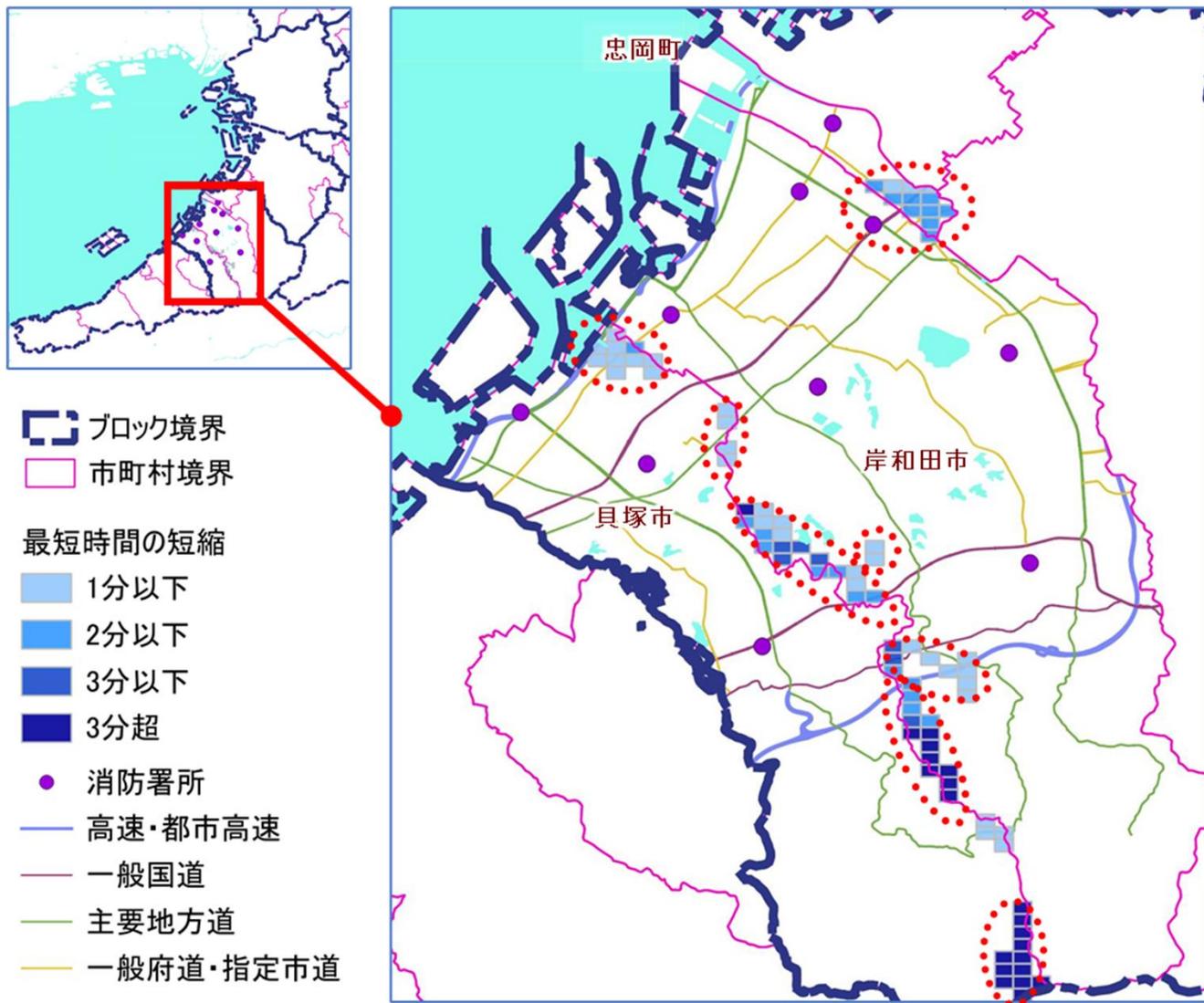
※道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある

堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション②

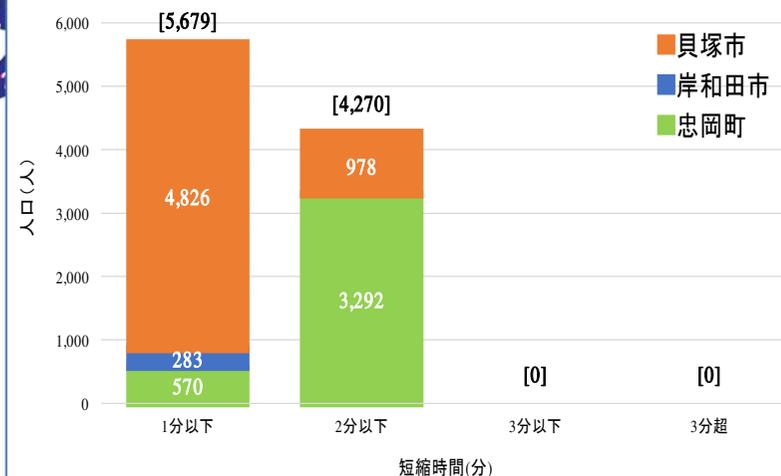
シミュレーション 1 : 消防署所からの現場到着時間の短縮化

案 2 - 1 ② : 忠岡町 + 岸和田市 + 貝塚市

【現場到着時間が短縮化する地域】



【現場到着時間が短縮化する地域の人口】



【現場到着時間が短縮化する地域の数(メッシュ数)】

短縮時間	メッシュ数		
	貝塚市	岸和田市	忠岡町
1分以下	16	17	2
2分以下	1	12	9
3分以下	—	7	—
3分超	12	9	—
合計	29	45	11

※黄セル: 居住者がいないメッシュを含む

※道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある

堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション③

シミュレーション 1 : 消防署所からの現場到着時間の短縮化

案 2 - 1 ③ : 忠岡町 + 岸和田市 + 貝塚市 + 泉州南ブロック

【現場到着時間が短縮化する地域】



【現場到着時間が短縮化する地域の人口】



【現場到着時間が短縮化する地域の数(メッシュ数)】

短縮時間	メッシュ数			
	忠岡町	岸和田市	貝塚市	泉州南B
1分以下	2	17	23	14
2分以下	9	12	4	10
3分以下	—	7	—	22
3分超	—	9	12	18
合計	11	45	39	64

※黄セル:居住者がいないメッシュを含む

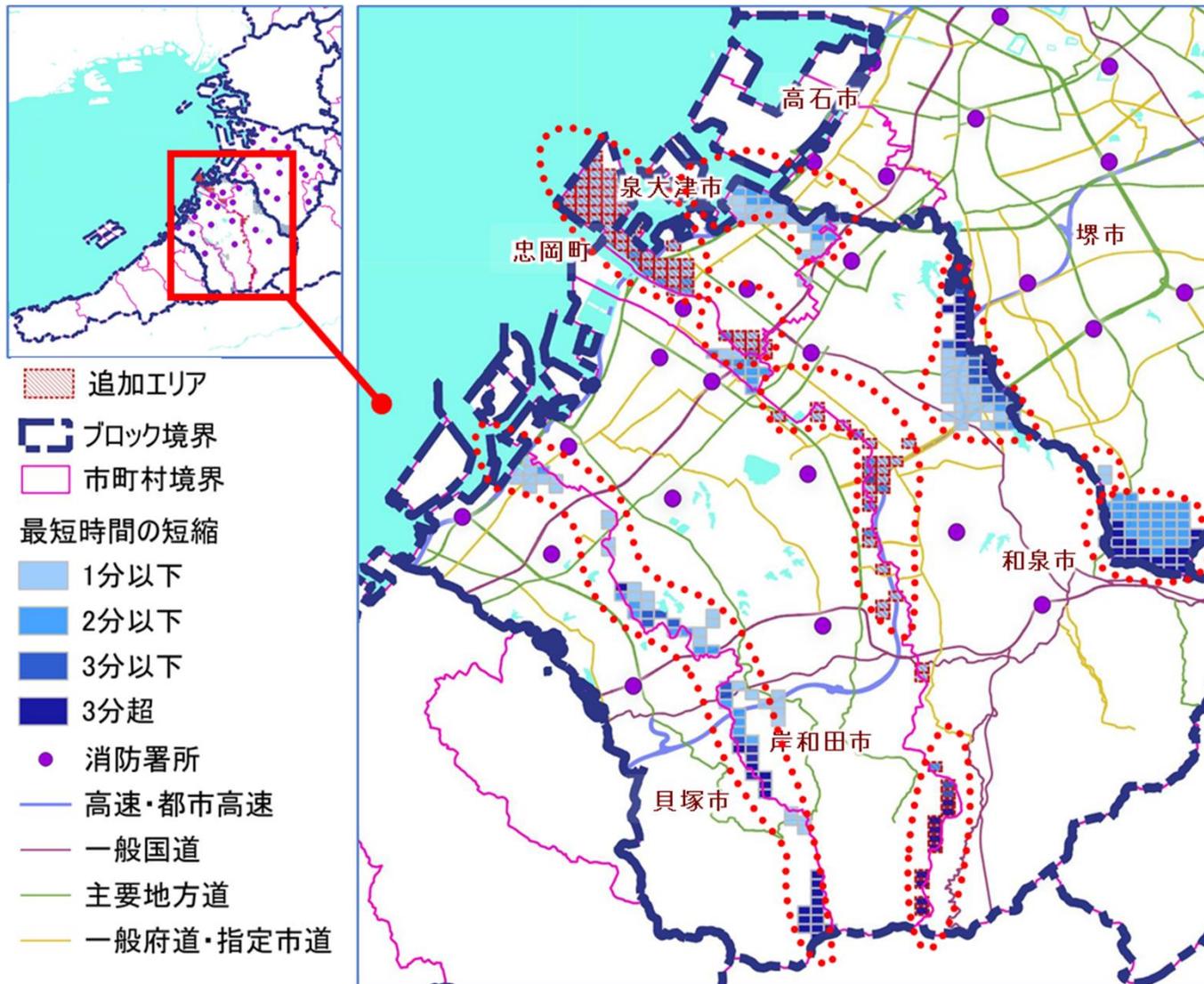
※道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある

堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション④

シミュレーション 1 : 消防署所からの現場到着時間の短縮化

案 2 - 2 : 堺市域 + 泉州北ブロック

【現場到着時間が短縮化する地域】



【現場到着時間が短縮化する地域の人口】



【現場到着時間が短縮化する地域の数(メッシュ数)】

短縮時間	メッシュ数	
	堺市域	泉州北B
1分以下	7	147
2分以下	31	55
3分以下	1	27
3分超	22	40
合計	61	269

※黄セル: 居住者がいないメッシュを含む

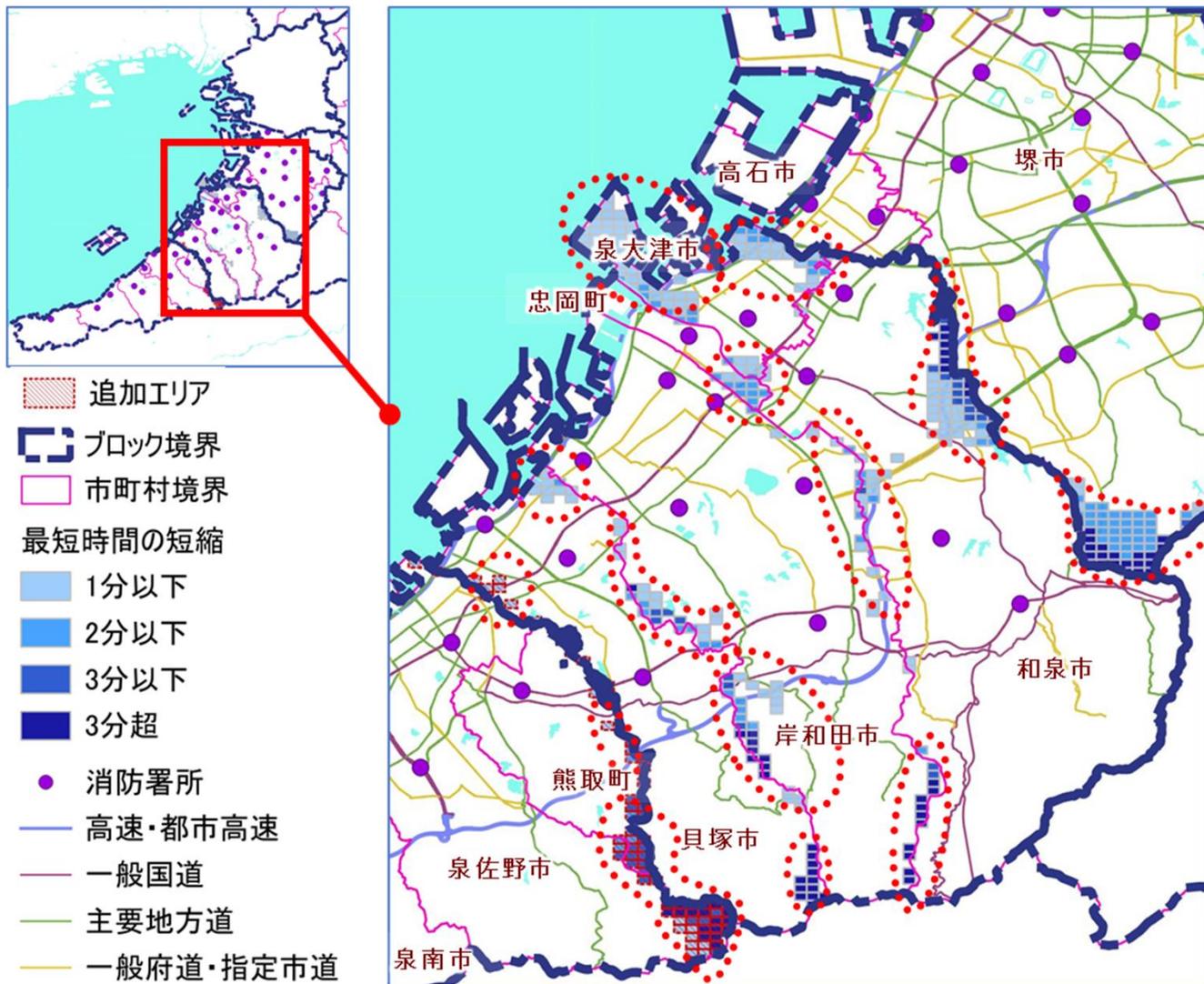
※道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある

堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション⑤

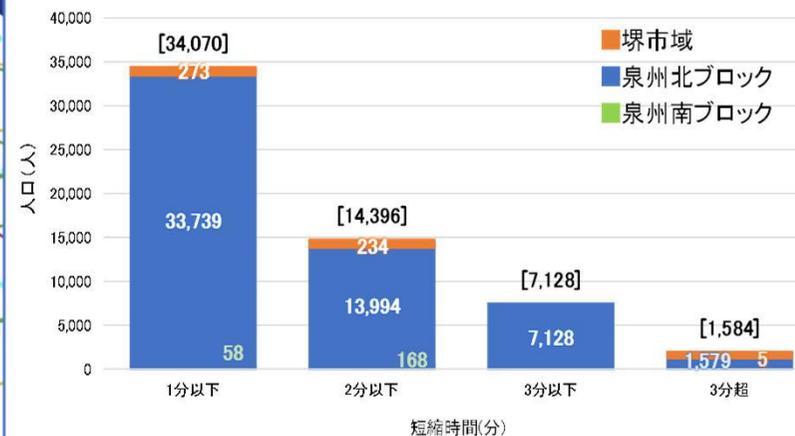
シミュレーション 1 : 消防署所からの現場到着時間の短縮化

案 2-3 : 堺市域+泉州北ブロック+泉州南ブロック

【現場到着時間が短縮化する地域】



【現場到着時間が短縮化する地域の人口】



【現場到着時間が短縮化する地域の数(メッシュ数)】

短縮時間	メッシュ数		
	堺市域	泉州北B	泉州南B
1分以下	7	154	14
2分以下	31	58	10
3分以下	1	27	22
3分超	22	40	18
合計	61	279	64

※黄セル: 居住者がいないメッシュを含む

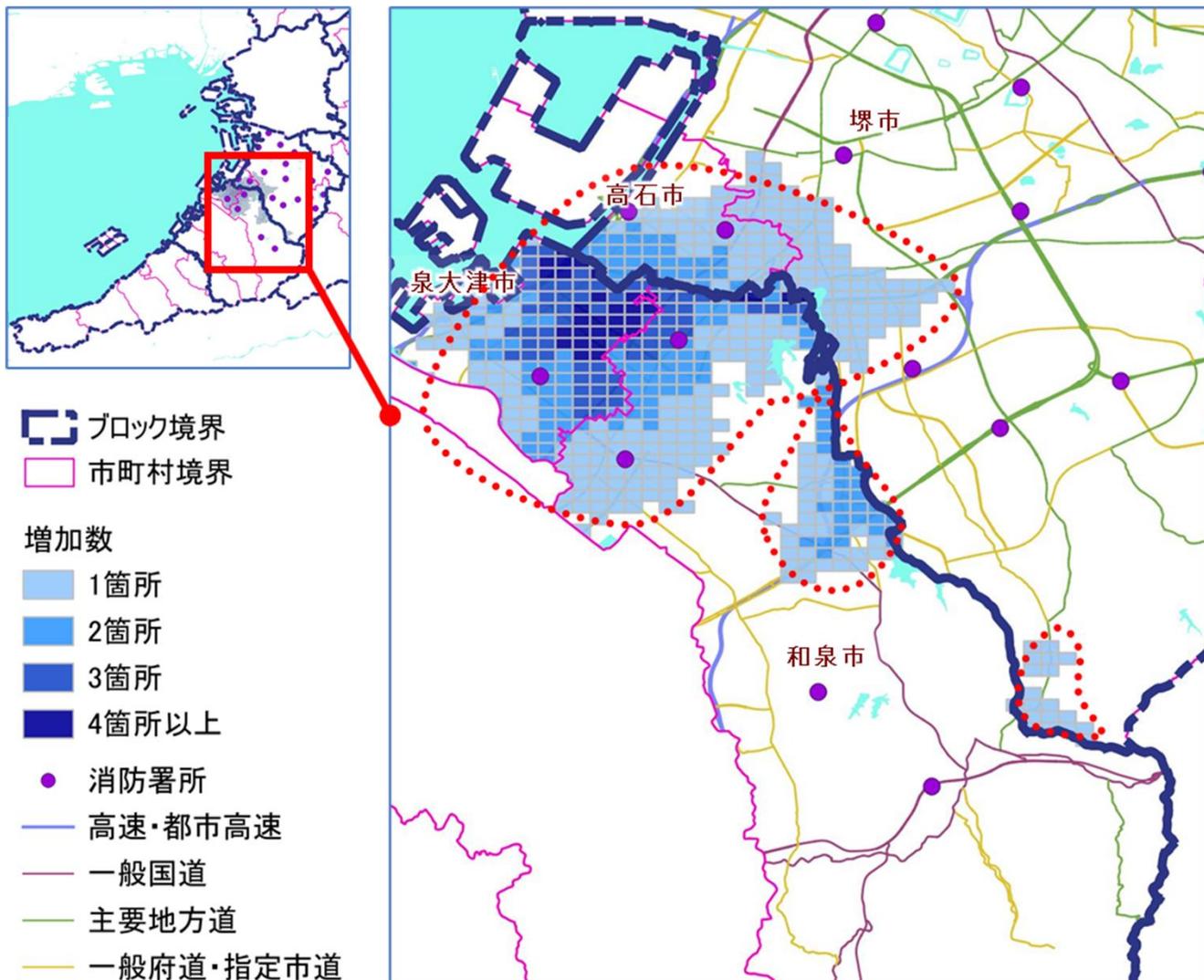
※道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある

堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション⑥

シミュレーション 2 : 5分以内に到達可能な消防署所数

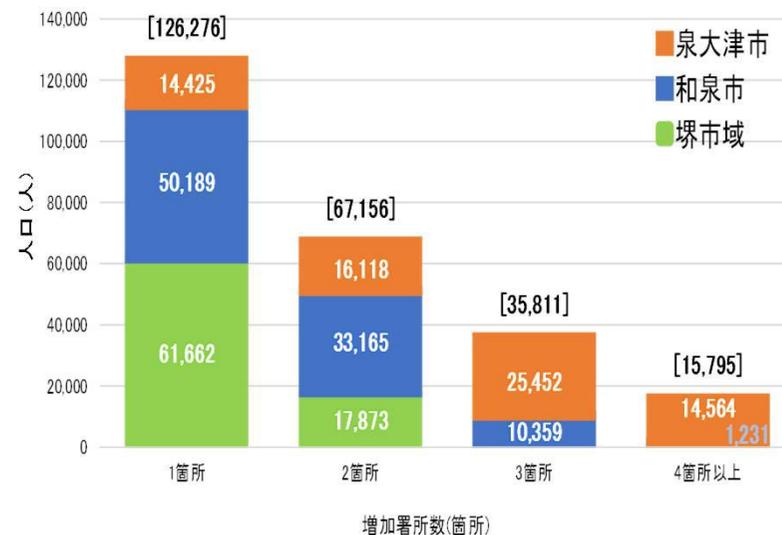
案 2 - 1 ① : 堺市域 + 和泉市 + 泉大津市

【5分以内に到達可能な消防署所が増える地域】



※道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある

【5分以内に到達可能な署所が増える地域の人口】



【5分以内に到達可能な署所が増える地域の数(メッシュ数)】

増加数	メッシュ数		
	堺市域	和泉市	泉大津市
1箇所	137	38	131
2箇所	31	33	71
3箇所	—	43	22
4箇所以上	—	28	4
合計	168	142	228

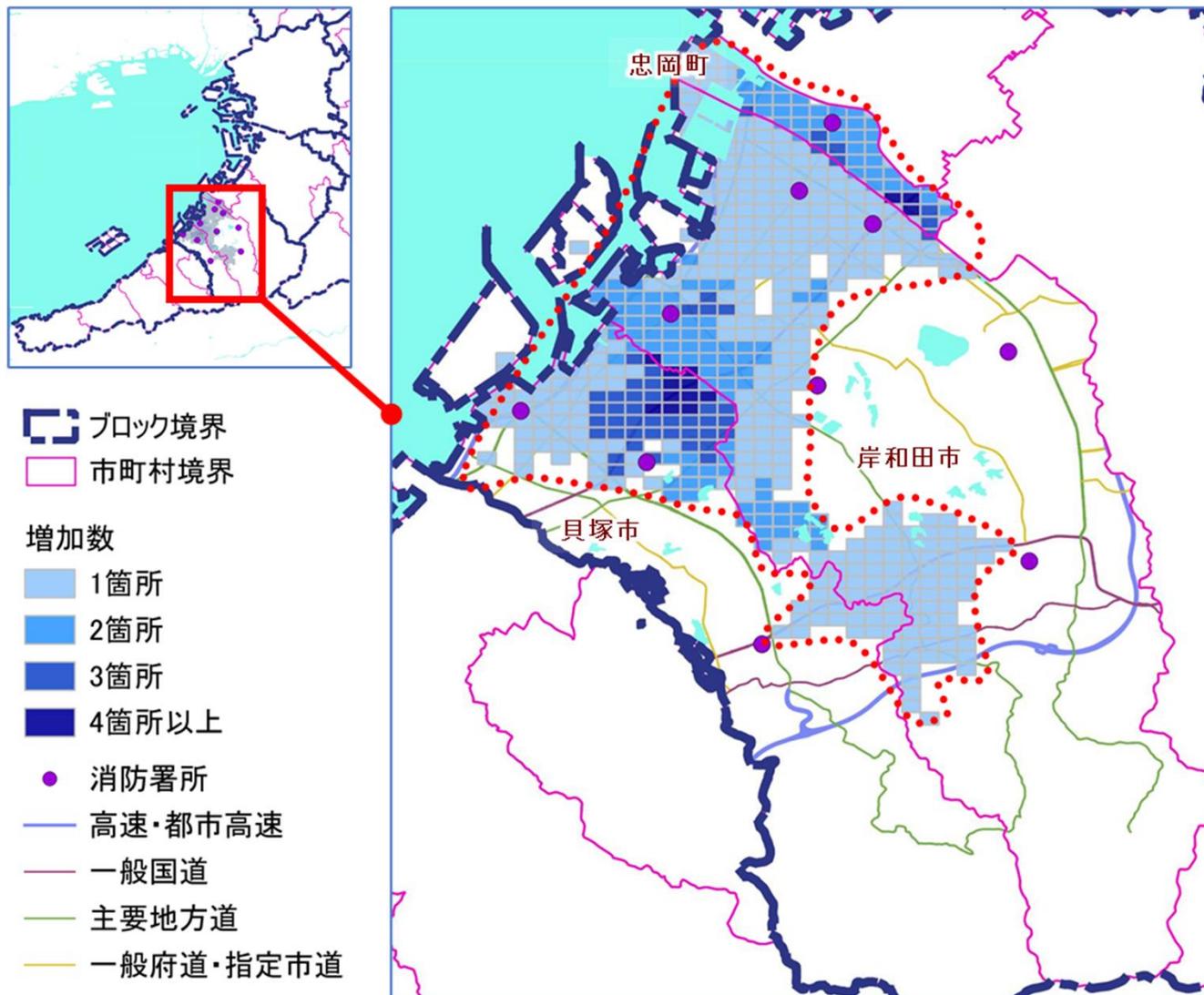
※黄セル: 居住者がいないメッシュを含む

堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション⑦

シミュレーション 2 : 5分以内に到達可能な消防署所数

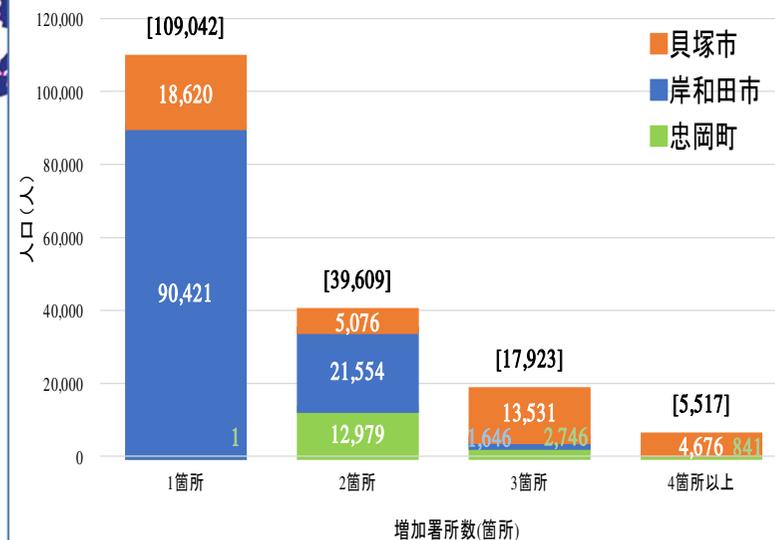
案 2 - 1 ② : 忠岡町 + 岸和田市 + 貝塚市

【5分以内に到達可能な消防署所が増える地域】



※道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある

【5分以内に到達可能な署所が増える地域の人口】



【5分以内に到達可能な署所が増える地域の数(メッシュ数)】

増加数	メッシュ数		
	貝塚市	岸和田市	忠岡町
1箇所	82	273	13
2箇所	13	70	37
3箇所	36	4	8
4箇所以上	11	—	3
合計	142	347	61

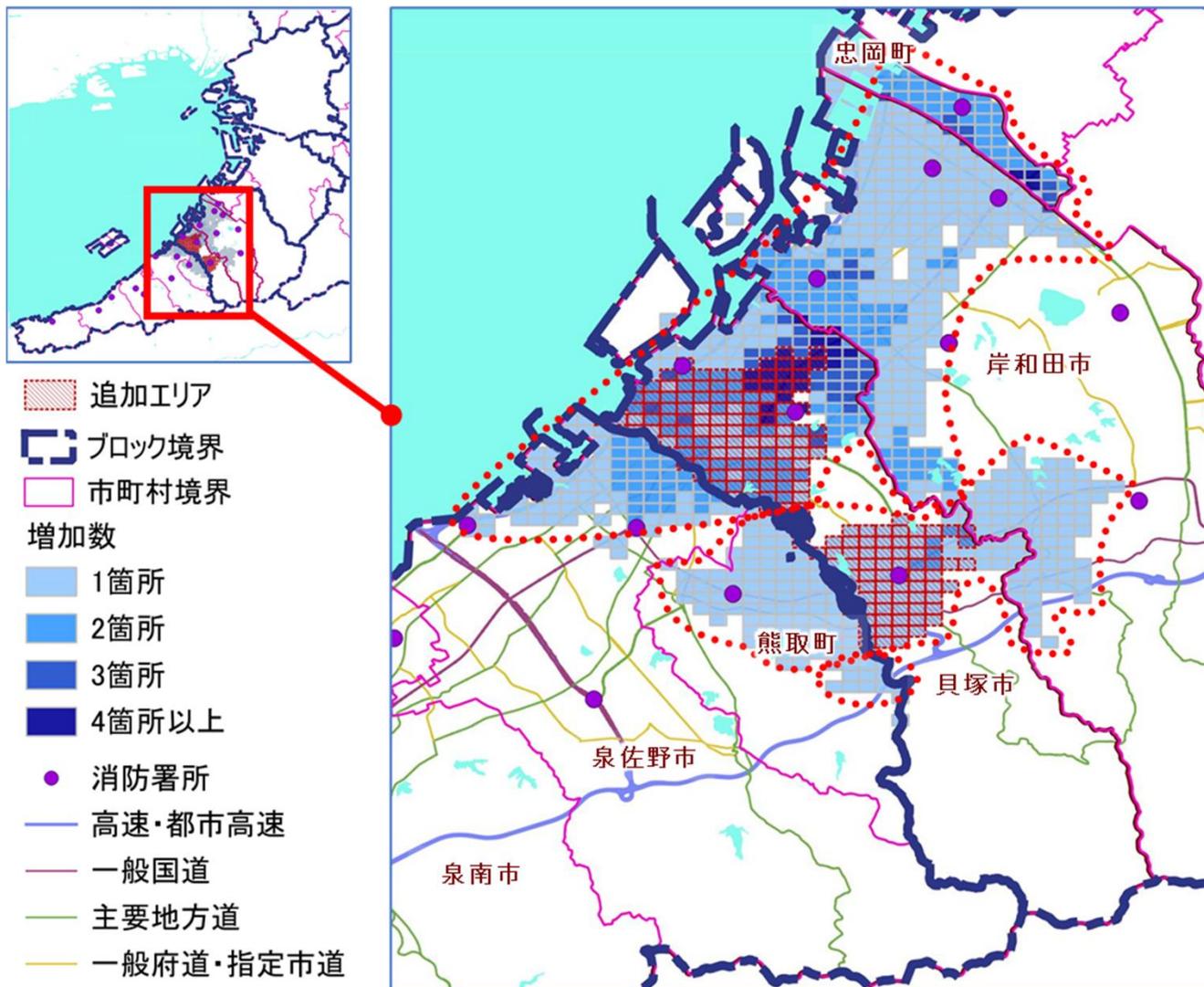
※黄セル: 居住者がいないメッシュを含む

堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション⑧

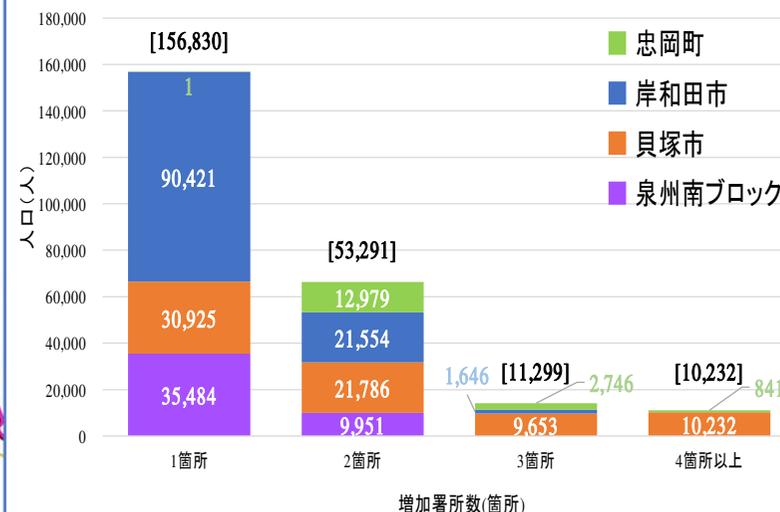
シミュレーション 2 : 5分以内に到達可能な消防署所数

案 2 - 1 ③ : 忠岡町 + 岸和田市 + 貝塚市 + 泉州南ブロック

【5分以内に到達可能な消防署所が増える地域】



【5分以内に到達可能な署所が増える地域の人口】



【5分以内に到達可能な署所が増える地域の数(メッシュ数)】

増加数	メッシュ数			
	忠岡町	岸和田市	貝塚市	泉州南B
1箇所	13	273	149	164
2箇所	37	70	79	33
3箇所	8	4	27	—
4箇所以上	3	—	26	—
合計	61	347	281	197

※黄セル:居住者がいないメッシュを含む

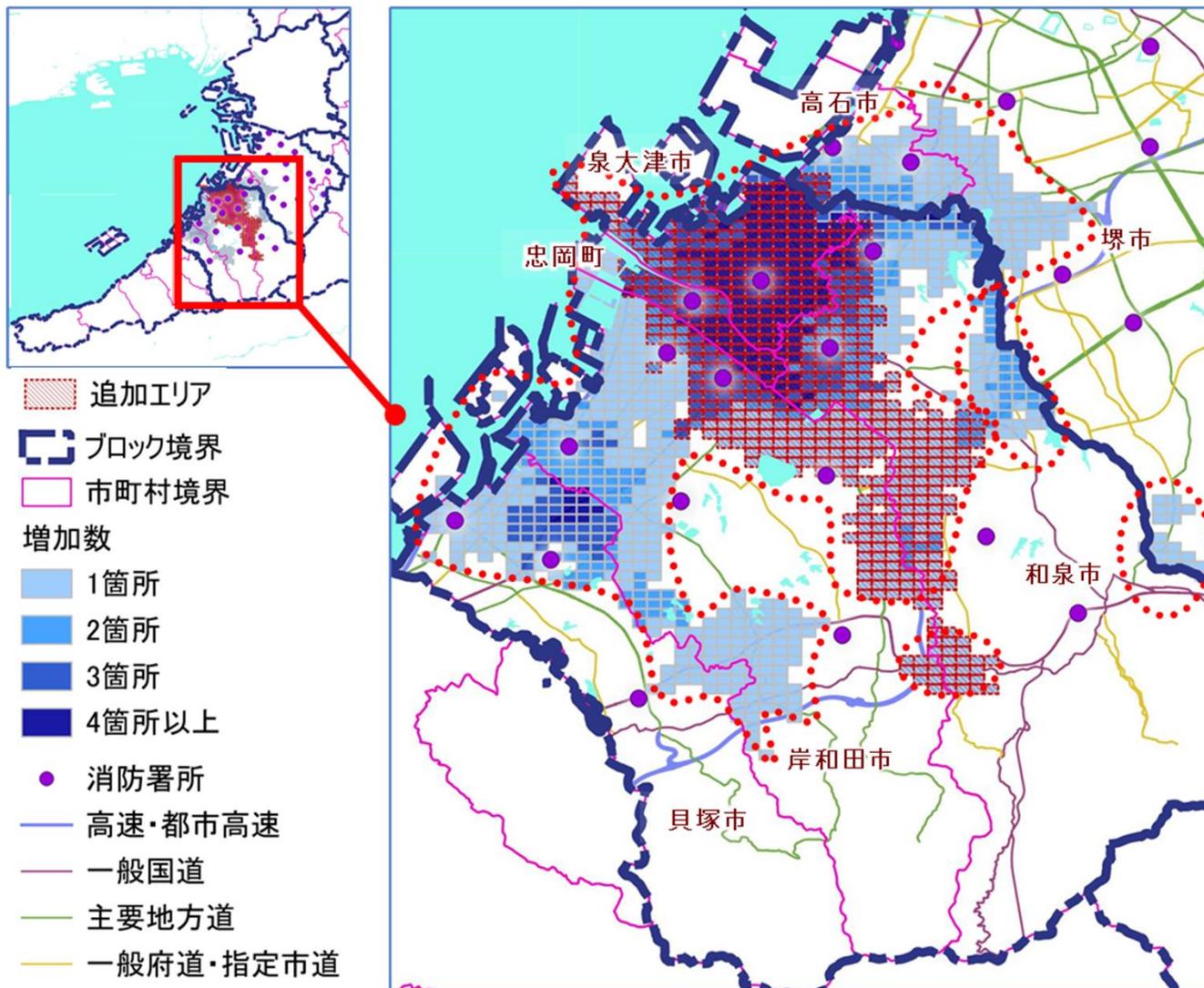
※道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある

堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション⑨

シミュレーション 2 : 5分以内に到達可能な消防署所数

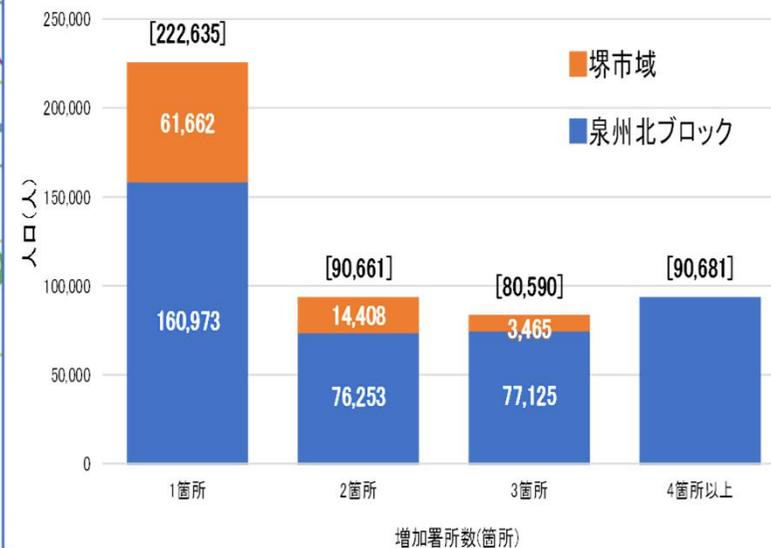
案 2 - 2 : 堺市域 + 泉州北ブロック

【5分以内に到達可能な消防署所が増える地域】



※道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある

【5分以内に到達可能な署所が増える地域の人口】



【5分以内に到達可能な署所が増える地域の数(メッシュ数)】

増加数	メッシュ数	
	堺市域	泉州北B
1箇所	137	622
2箇所	25	224
3箇所	6	174
4箇所以上	—	180
合計	168	1,200

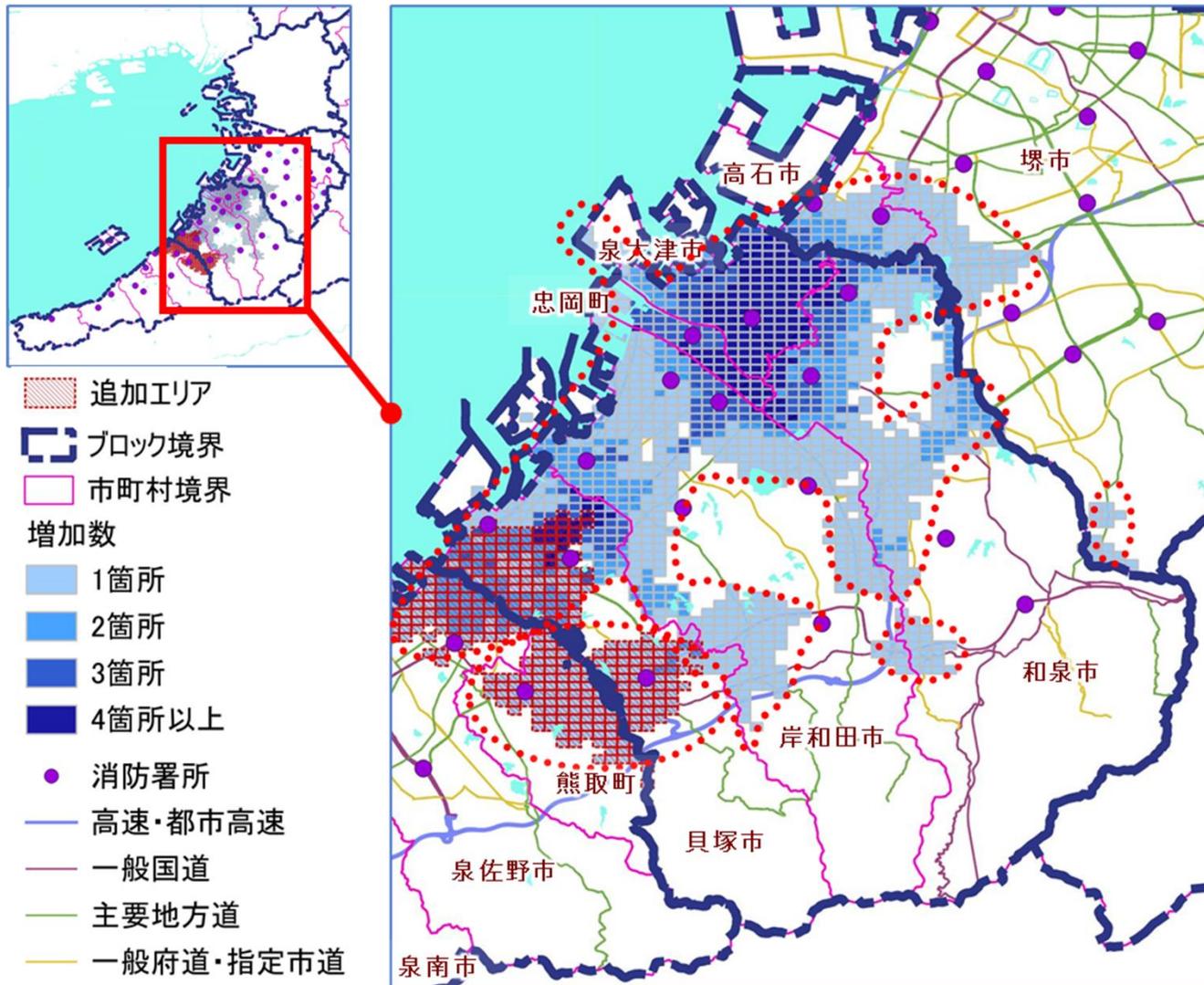
※黄セル: 居住者がいないメッシュを含む

堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション⑩

シミュレーション 2 : 5分以内に到達可能な消防署所数

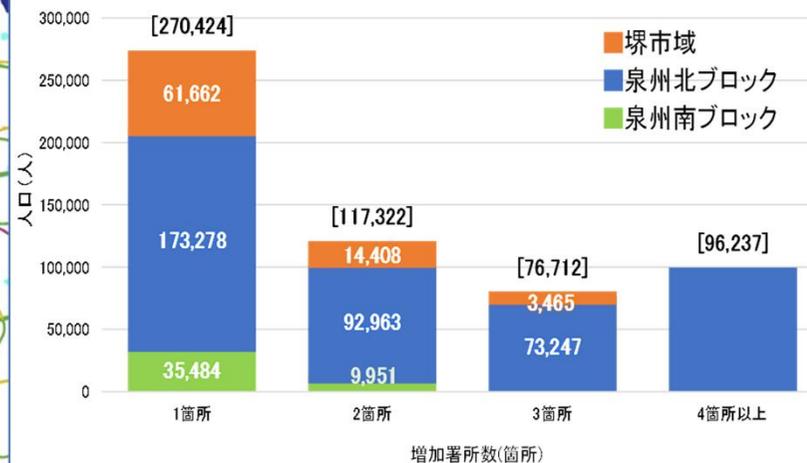
案 2 - 3 : 堺市域+泉州北ブロック+泉州南ブロック

【5分以内に到達可能な消防署所が増える地域】



※道路データには実際の交通状況等は反映されていないため、実際の効果発現地域とは異なる可能性がある

【5分以内に到達可能な署所が増える地域の人口】



【5分以内に到達可能な署所が増える地域の数(メッシュ数)】

増加数	メッシュ数		
	堺市域	泉州北B	泉州南B
1箇所	137	689	164
2箇所	25	290	33
3箇所	6	165	—
4箇所以上	—	195	—
合計	168	1,339	197

※黄セル: 居住者がいないメッシュを含む

堺市域・泉州北付近の広域化シミュレーション⑪

シミュレーション3：第一出動体制の強化

案2-1①：堺市域+和泉市+泉大津市

第一出動体制の車両台数：(現状) 6~8台 → (広域化後) 8台
 第一出動体制の編成可能隊数：(現状) 1~5隊 → (広域化後) 7隊

【現状と広域化後の第一出動体制の比較】

堺市消防局	【車両台数】増加なし、【部隊数】2隊増加
和泉市消防本部	【車両台数】1台増加、【部隊数】6隊増加
泉大津市消防本部	【車両台数】2台増加、【部隊数】6隊増加

第一出動体制		ポンプ車 (台)	救急車 (台)	はしご車 (台)	救助 工作車 (台)	指揮車 (台)	合計 (台)	第一出動体制 編成可能隊数 (隊)
現状	堺市消防局	(内訳省略)					8	5
	和泉市消防本部						7	1
	泉大津市消防本部						6	1
広域化後		5	1	0	1	1	8	7

(参考)

広域化後の車両計	40	32	15	7	14	108	-
----------	----	----	----	---	----	-----	---

案2-1②：忠岡町+岸和田市+貝塚市

第一出動体制の車両台数：(現状) 3~7台 → (広域化後) 7台
 第一出動体制の編成可能隊数：(現状) 1隊 → (広域化後) 2隊

【現状と広域化後の第一出動体制の比較】

忠岡町消防本部	【車両台数】4台増加、【部隊数】1隊増加
岸和田市消防本部	【車両台数】増加なし、【部隊数】1隊増加
貝塚市消防本部	【車両台数】1台増加、【部隊数】1隊増加

第一出動体制		ポンプ車 (台)	救急車 (台)	はしご車 (台)	救助 工作車 (台)	指揮車 (台)	合計 (台)	第一出動体制 編成可能数 (隊)
現状	忠岡町消防本部	(内訳省略)					3	1
	岸和田市消防本部						7	1
	貝塚市消防本部						6	1
広域化後		4	1	0	1	1	7	2

(参考)

広域化後の車両計	13	9	2	2	3	29	-
----------	----	---	---	---	---	----	---

※各本部・署所の車両配置状況や車両の運用実態(例:救助工作車の代わりにポンプ車を使用する等)、乗組員数は考慮しておらず、保有車両種別・台数のみから算出
 ※地域による第一出動体制の規模(車種・台数)の違い(運用実態)は考慮していない

堺市域・泉州北付近の広域化シミュレーション⑫

シミュレーション3：第一出動体制の強化

案2-1③：忠岡町+岸和田市+貝塚市+泉州南ブロック

第一出動体制の車両台数：(現状) 3～9台 → (広域化後) 9台
 第一出動体制の編成可能隊数：(現状) 1隊 → (広域化後) 2隊

【現状と広域化後の第一出動体制の比較】

忠岡町消防本部	【車両台数】6台増加、【部隊数】1隊増加
岸和田市消防本部	【車両台数】2台増加、【部隊数】1隊増加
貝塚市消防本部	【車両台数】3台増加、【部隊数】1隊増加
泉州南広域消防本部	【車両台数】増加なし、【部隊数】1隊増加

第一出動体制		ポンプ車 (台)	救急車 (台)	はしご車 (台)	救助 工作車 (台)	指揮車 (台)	合計 (台)	第一出動体制 編成可能数 (隊)
現状	忠岡町消防本部	(内訳省略)					3	1
	岸和田市消防本部						7	1
	貝塚市消防本部						6	1
	泉州南広域消防本部						9	1
広域化後		4	1	0	2	2	9	2

(参考)

広域化後の車両計	27	22	5	6	5	65	—
----------	----	----	---	---	---	----	---

案2-2：堺市域+泉州北ブロック

第一出動体制の車両台数：(現状) 3～8台 → (広域化後) 8台
 第一出動体制の編成可能隊数：(現状) 1～5隊 → (広域化後) 9隊

【現状と広域化後の第一出動体制の比較】

堺市消防局	【車両台数】増加なし、【部隊数】4隊増加
和泉市消防本部	【車両台数】1台増加、【部隊数】8隊増加
泉大津市消防本部	【車両台数】2台増加、【部隊数】8隊増加
忠岡町消防本部	【車両台数】5台増加、【部隊数】8隊増加
岸和田市消防本部	【車両台数】1台増加、【部隊数】8隊増加
貝塚市消防本部	【車両台数】2台増加、【部隊数】8隊増加

第一出動体制		ポンプ車 (台)	救急車 (台)	はしご車 (台)	救助 工作車 (台)	指揮車 (台)	合計 (台)	第一出動体制 編成可能数 (隊)
現状	堺市消防局	(内訳省略)					8	5
	和泉市消防本部						7	1
	泉大津市消防本部						6	1
	忠岡町消防本部						3	1
	岸和田市消防本部						7	1
	貝塚市消防本部						6	1
広域化後		5	1	0	1	1	8	9

(参考)

広域化後の車両計	53	41	17	9	17	137	—
----------	----	----	----	---	----	-----	---

※各本部・署所の車両配置状況や車両の運用実態(例:救助工作車の代わりにポンプ車を使用する等)、乗組員数は考慮しておらず、保有車両種別・台数のみから算出
 ※地域による第一出動体制の規模(車種・台数)の違い(運用実態)は考慮していない

シミュレーション3：第一出動体制の強化

案2-3：堺市域+泉州北ブロック+泉州南ブロック

第一出動体制の車両台数：（現状）3～9台 ➡（広域化後）10台

第一出動体制の編成可能隊数：（現状）1～5隊 ➡（広域化後）6隊

【現状と広域化後の第一出動体制の比較】

堺市消防局	【車両台数】2台増加、【部隊数】1隊増加						
和泉市消防本部	【車両台数】3台増加、【部隊数】5隊増加						
泉大津市消防本部	【車両台数】4台増加、【部隊数】5隊増加						
忠岡町消防本部	【車両台数】7台増加、【部隊数】5隊増加						
岸和田市消防本部	【車両台数】3台増加、【部隊数】5隊増加						
貝塚市消防本部	【車両台数】4台増加、【部隊数】5隊増加						
泉州南広域消防本部	【車両台数】1台増加、【部隊数】5隊増加						
第一出動体制	ポンプ車 (台)	救急車 (台)	はしご車 (台)	救助 工作車 (台)	指揮車 (台)	合計 (台)	第一出動体制 編成可能数 (隊)
現 状	堺市消防局	(内訳省略)				8	5
	和泉市消防本部	(内訳省略)				7	1
	泉大津市消防本部	(内訳省略)				6	1
	忠岡町消防本部	(内訳省略)				3	1
	岸和田市消防本部	(内訳省略)				7	1
	貝塚市消防本部	(内訳省略)				6	1
	泉州南広域消防本部	(内訳省略)				9	1
広域化後	5	1	0	2	2	10	6
(参考)							
広域化後の車両計	67	54	20	13	18	172	—

※各本部・署所の車両配置状況や車両の運用実態(例:救助工作車の代わりにポンプ車を使用する等)、乗組員数は考慮しておらず、保有車両種別・台数のみから算出
 ※地域による第一出動体制の規模(車種・台数)の違い(運用実態)は考慮していない

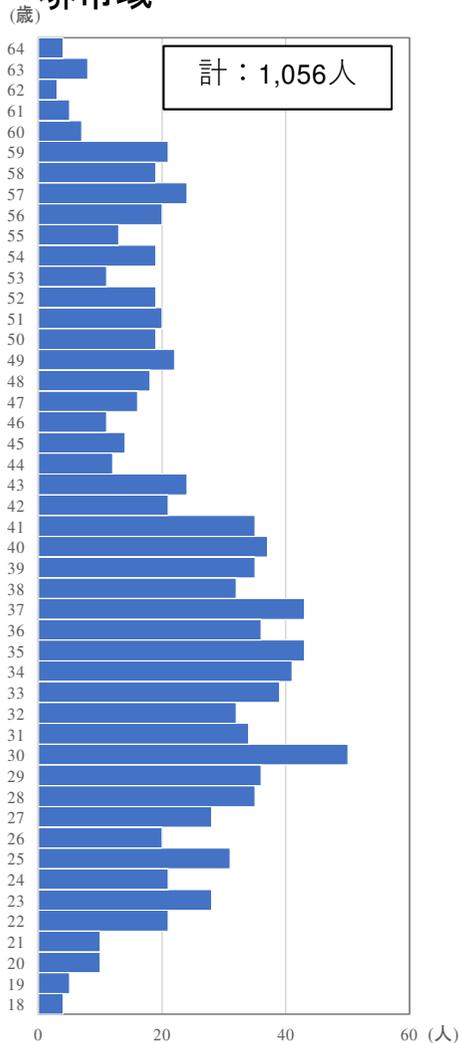
堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション⑭

シミュレーション4：年齢構成の変化

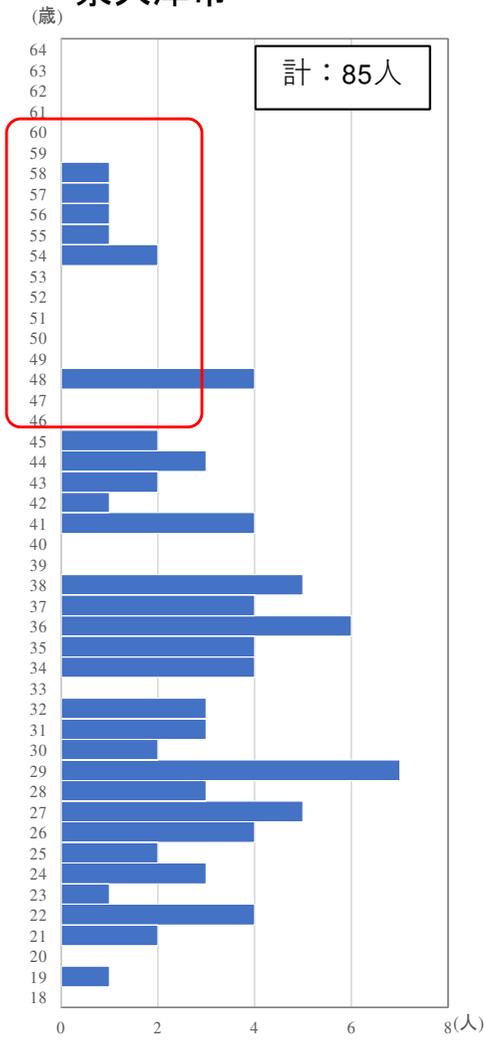
案2-1①：堺市域+和泉市+泉大津市

【広域化前】

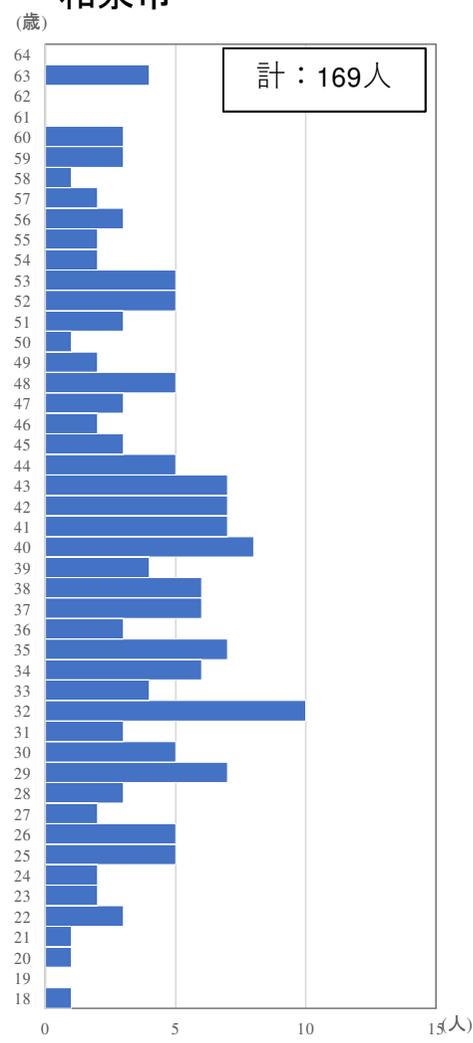
堺市域



泉大津市

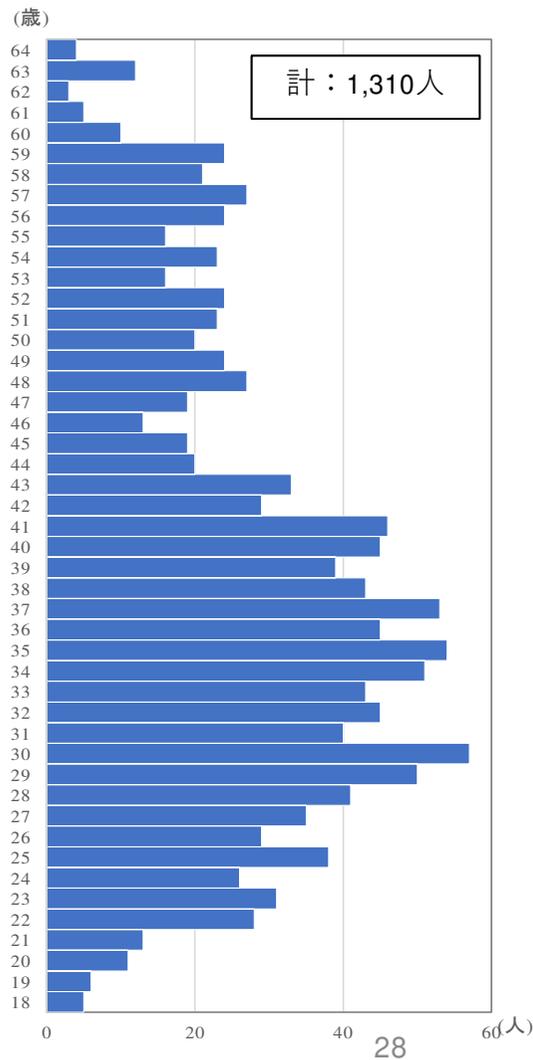


和泉市



【広域化後】

堺市域+和泉市+泉大津市



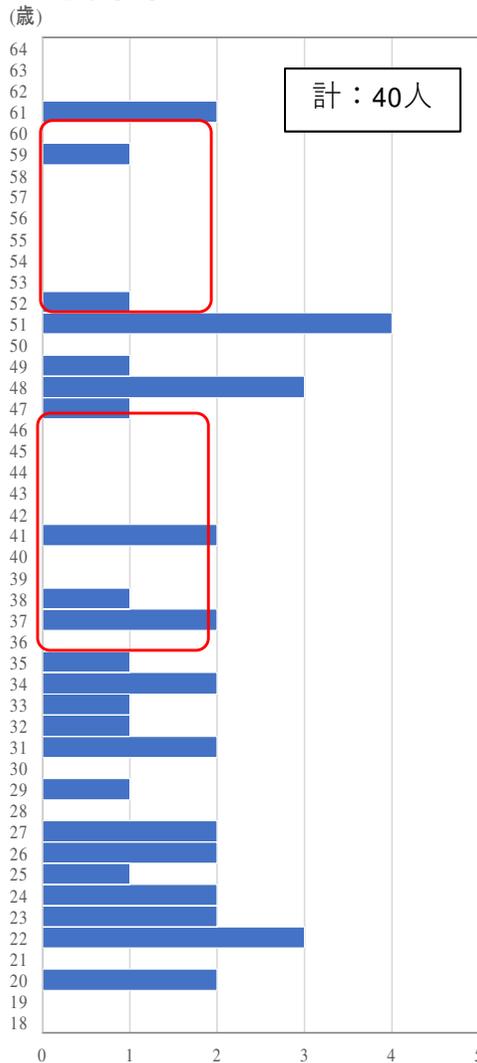
堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション⑮

シミュレーション4：年齢構成の変化

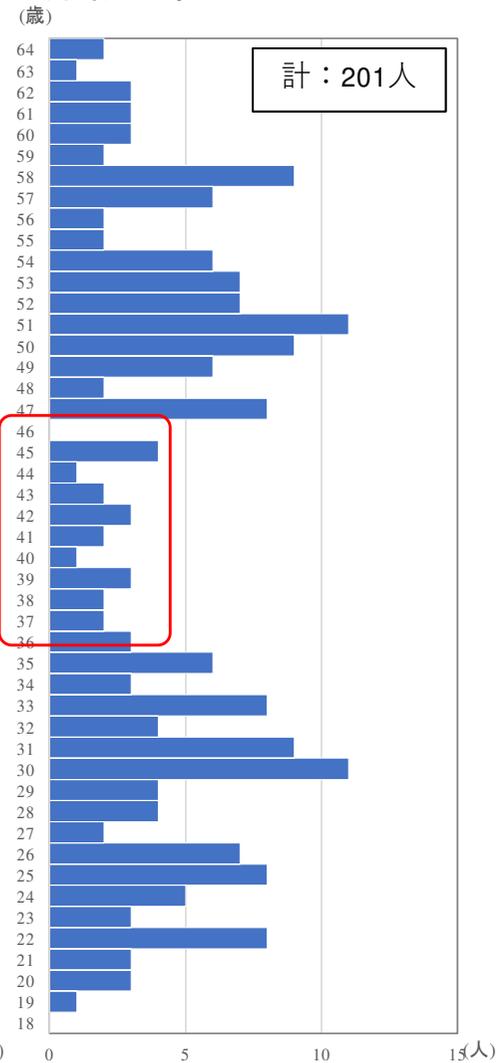
案2-1②：忠岡町+岸和田市+貝塚市

【広域化前】

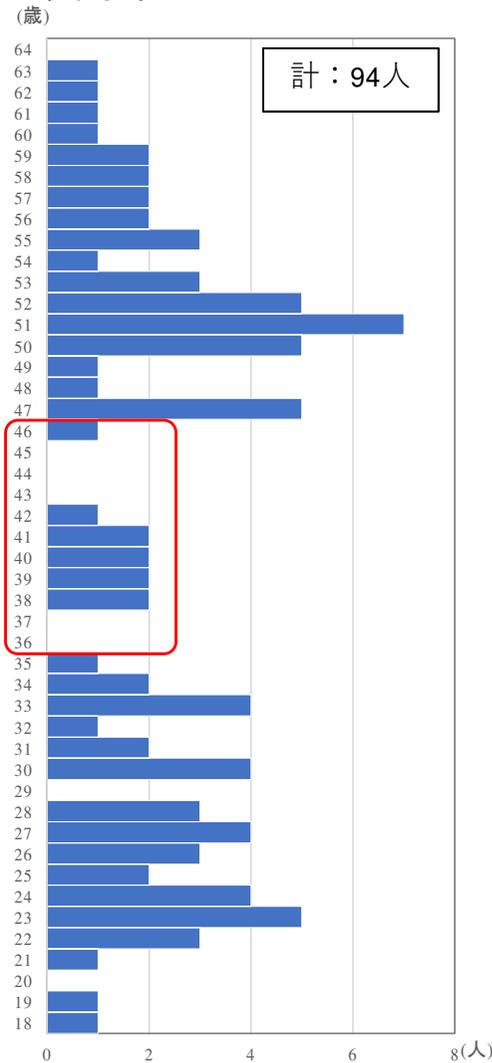
忠岡町



岸和田市

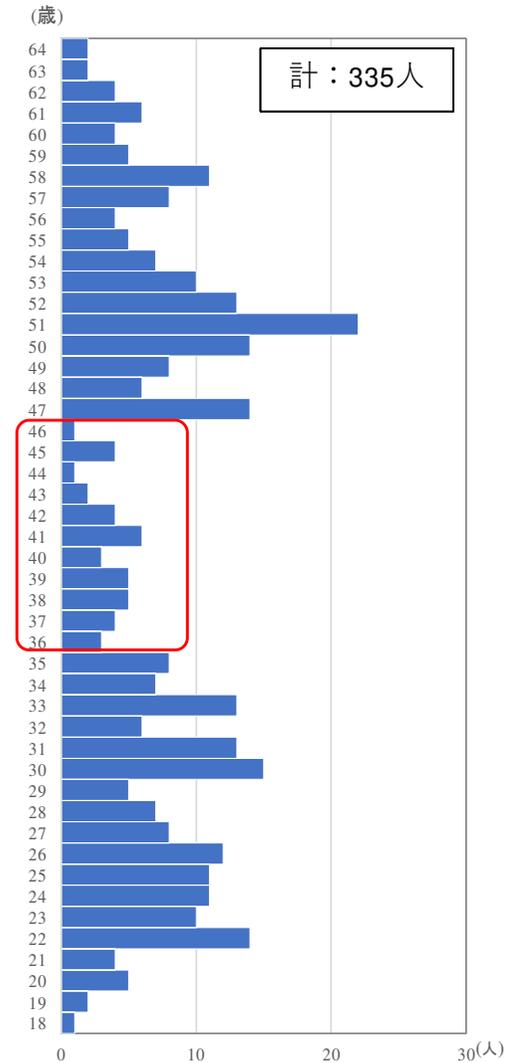


貝塚市



【広域化後】

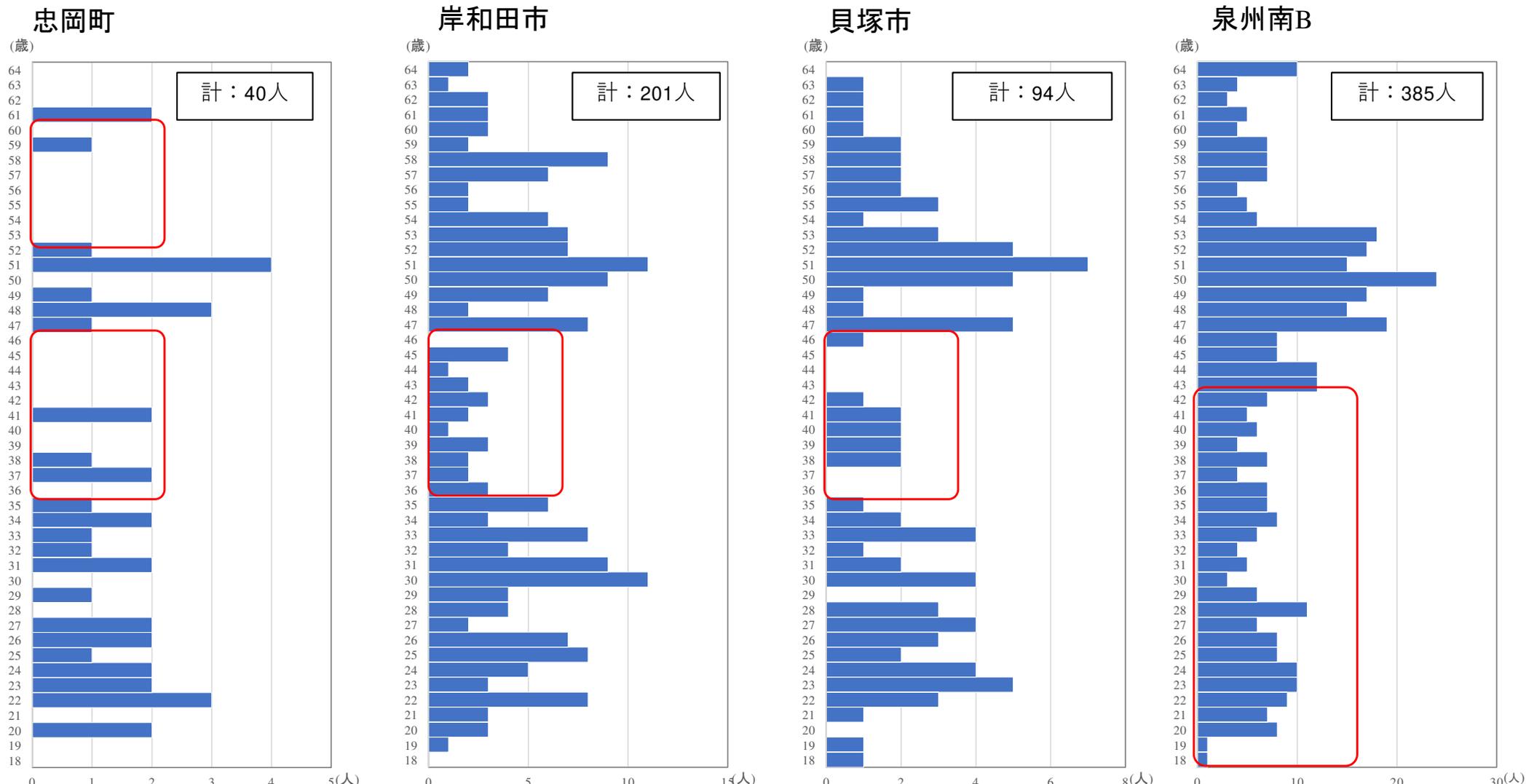
忠岡町+岸和田市+貝塚市



シミュレーション4：年齢構成の変化

案2-1③：忠岡町+岸和田市+貝塚市+泉州南ブロック

【広域化前】

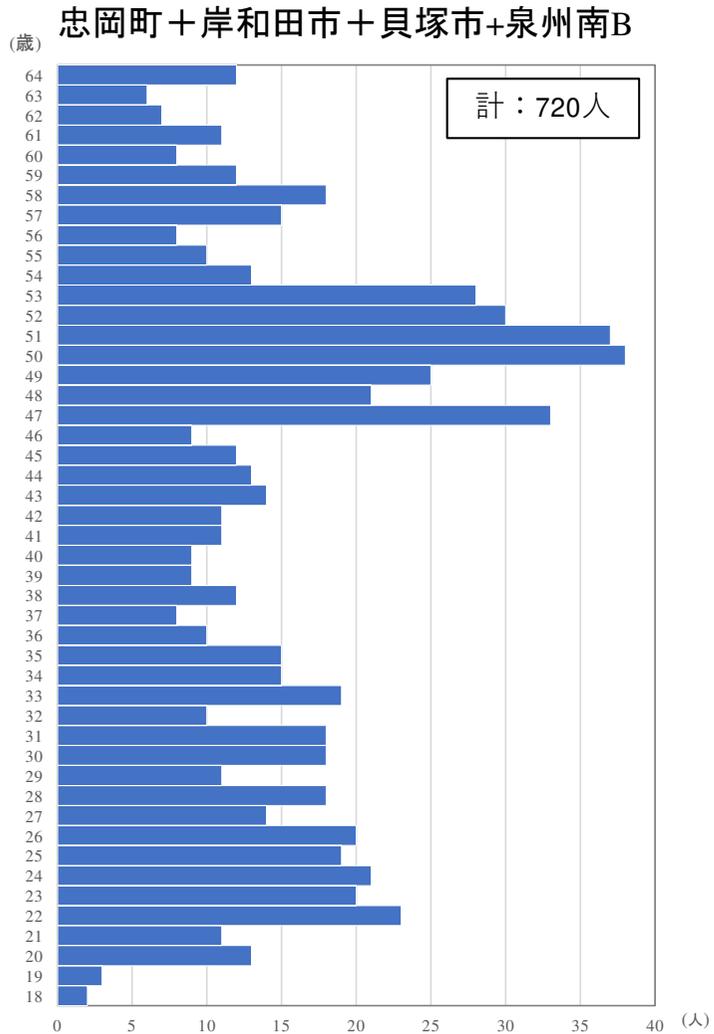


(出典) 令和5年度消防防災・震災対策現況調査(第02表：年齢別及び階級別消防吏員数)より作成

シミュレーション4：年齢構成の変化

案2-1③：忠岡町+岸和田市+貝塚市+泉州南ブロック（続き）

【広域化後】



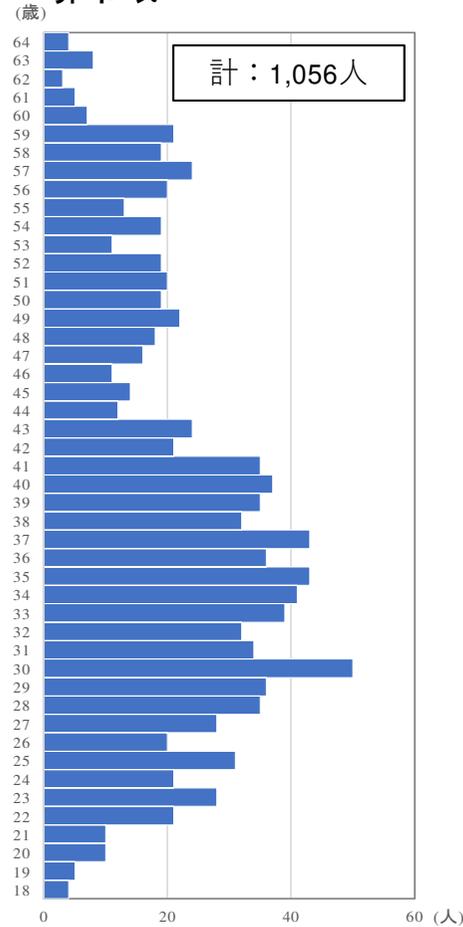
堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション⑱

シミュレーション4：年齢構成の変化

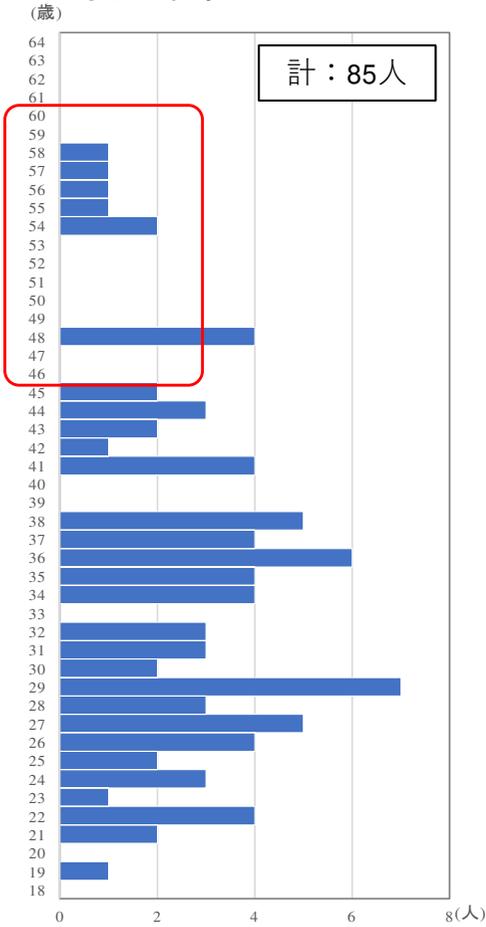
案2-2：堺市域+泉州北ブロック

【広域化前】

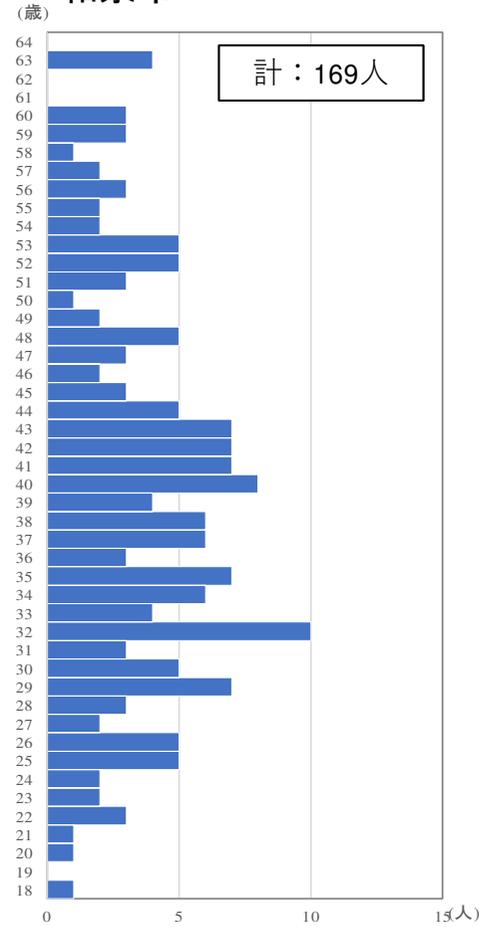
堺市域



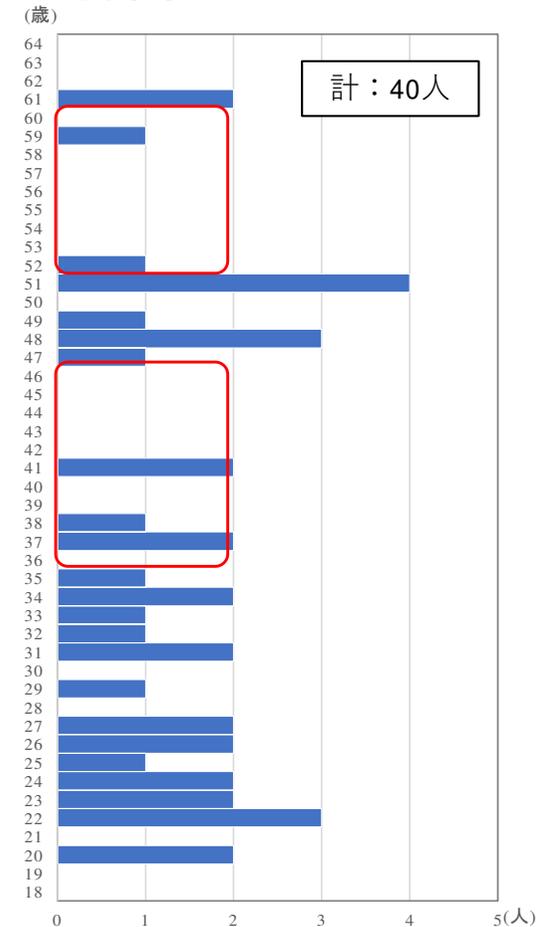
泉大津市



和泉市



忠岡町

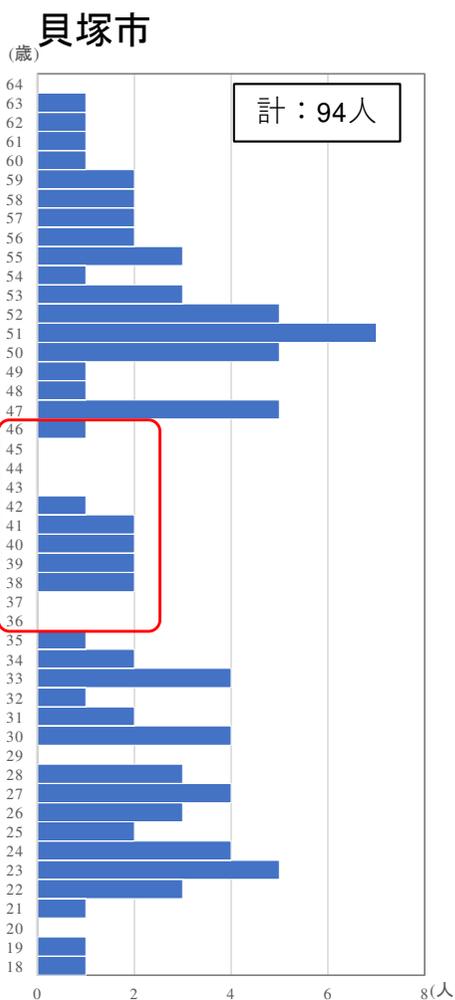
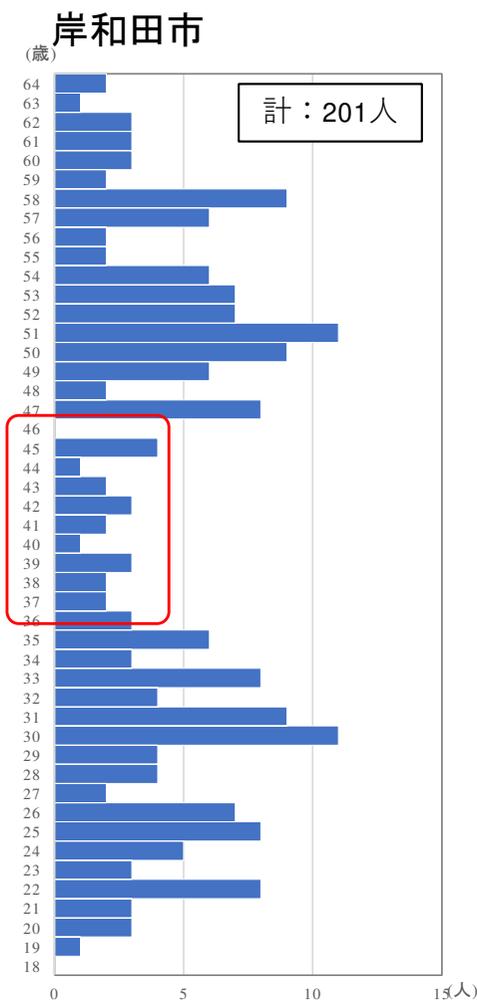


(出典) 令和5年度消防防災・震災対策現況調査(第02表：年齢別及び階級別消防吏員数)より作成

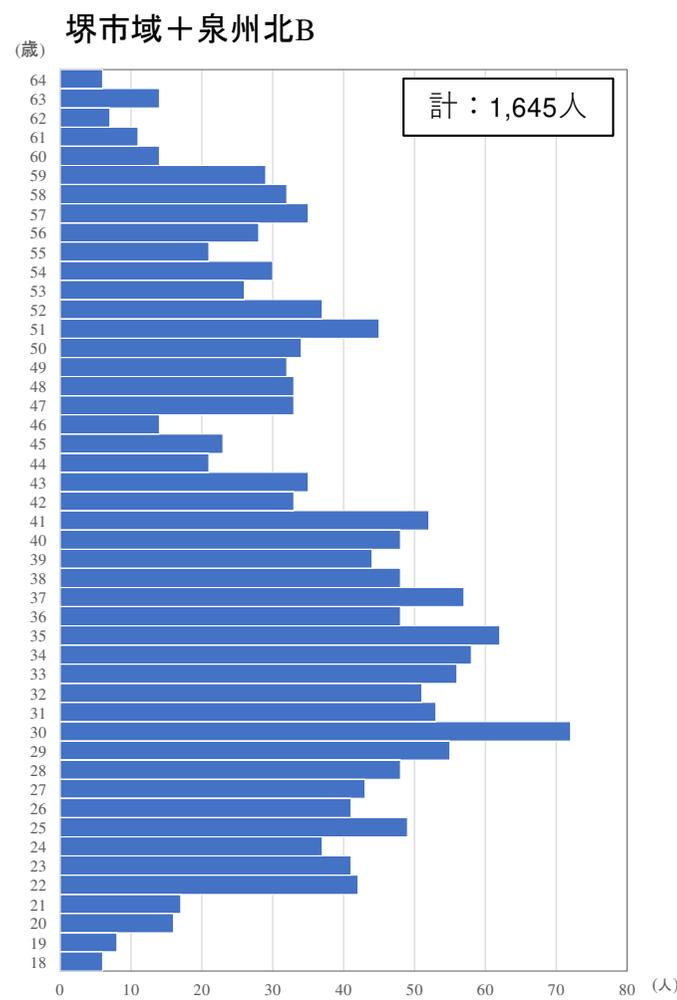
シミュレーション4：年齢構成の変化

案2-2：堺市域+泉州北ブロック（続き）

【広域化前（続き）】



【広域化後】



(出典) 令和5年度消防防災・震災対策現況調査(第02表：年齢別及び階級別消防吏員数)より作成

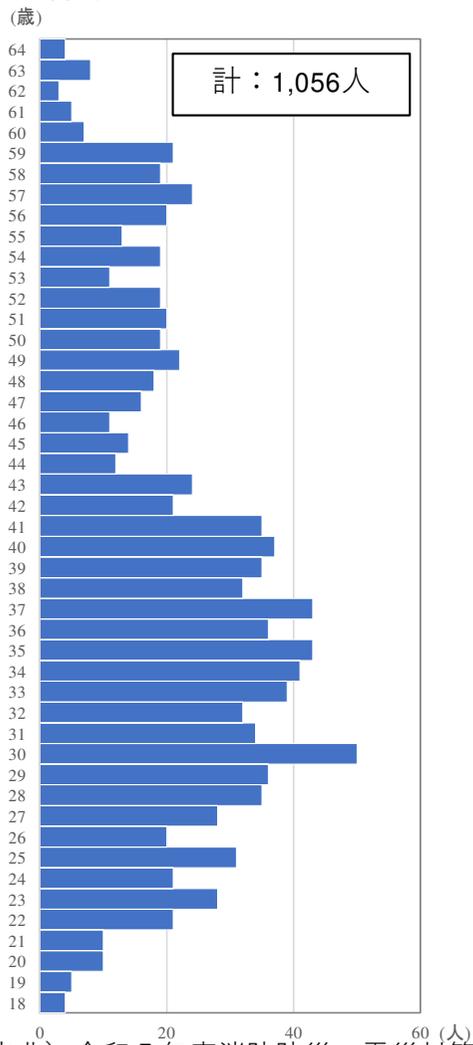
堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション⑳

シミュレーション4：年齢構成の変化

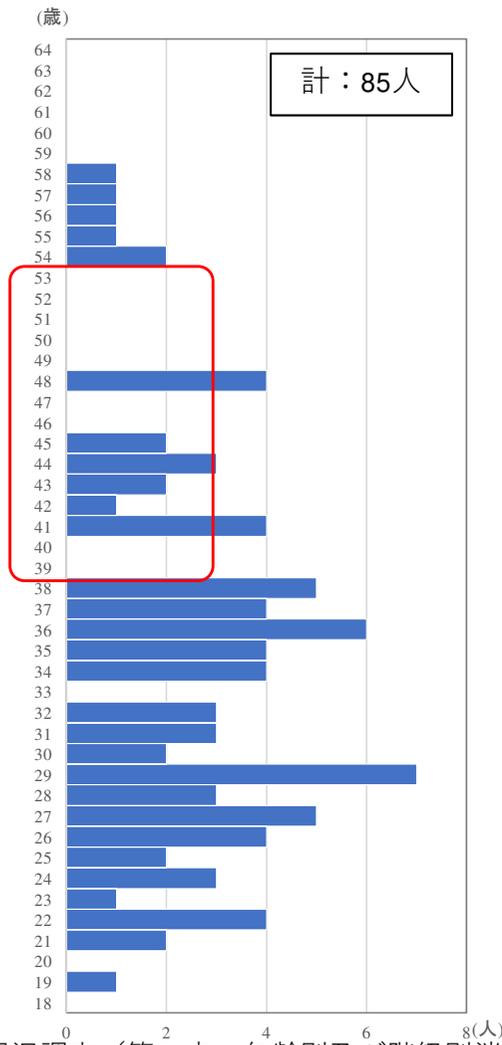
案2-3：堺市域+泉州北ブロック+泉州南ブロック

【広域化前】

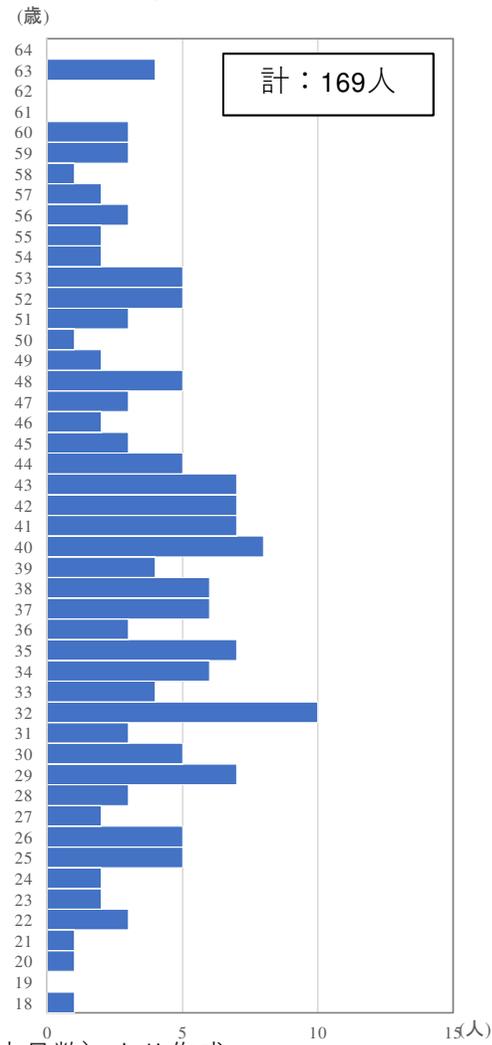
堺市域



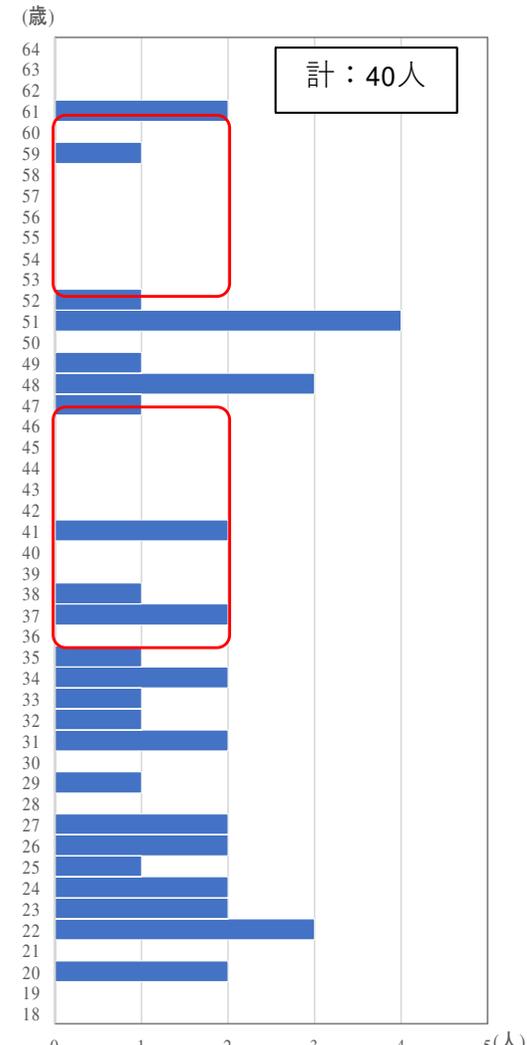
泉大津市



和泉市



忠岡町



(出典) 令和5年度消防防災・震災対策現況調査(第02表：年齢別及び階級別消防吏員数)より作成

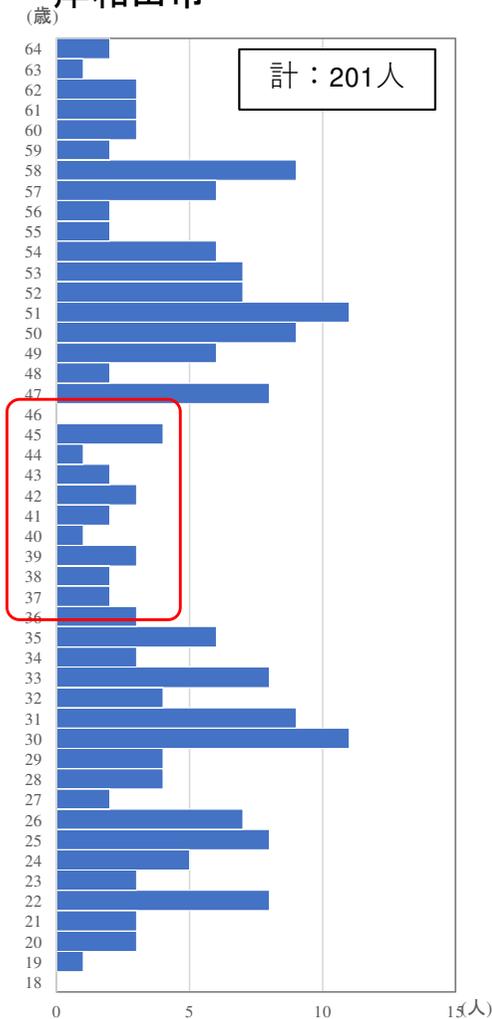
堺市域・泉州北ブロック付近の広域化シミュレーション②

シミュレーション4：年齢構成の変化

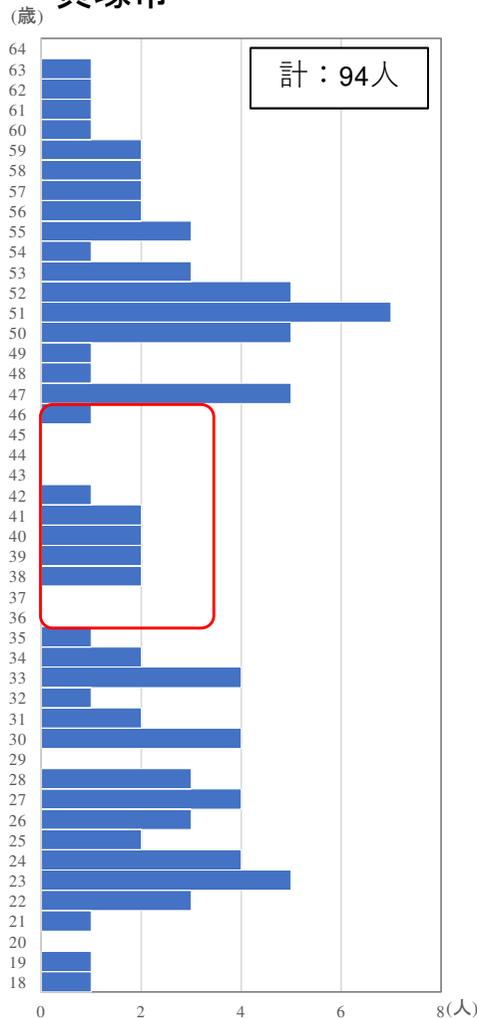
案2-3：堺市域+泉州北ブロック+泉州南ブロック（続き）

【広域化前(続き)】

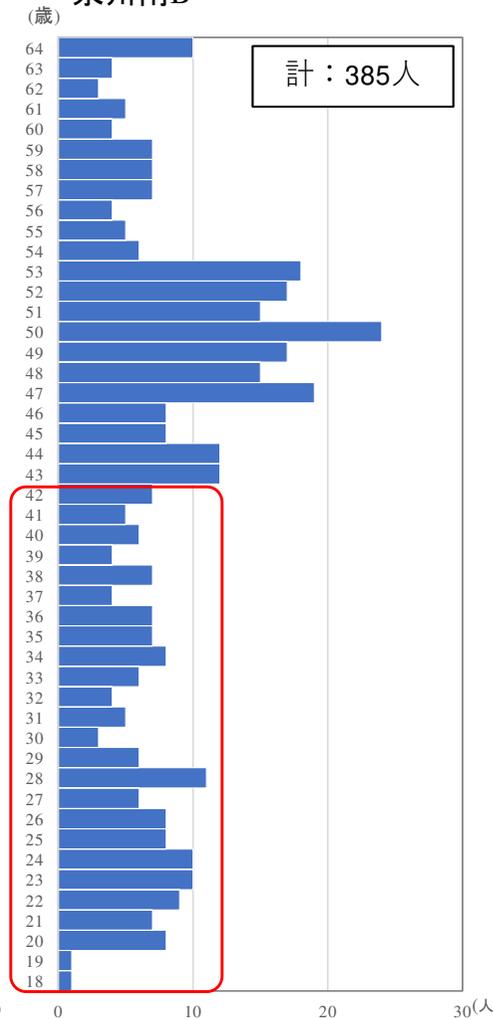
岸和田市



貝塚市

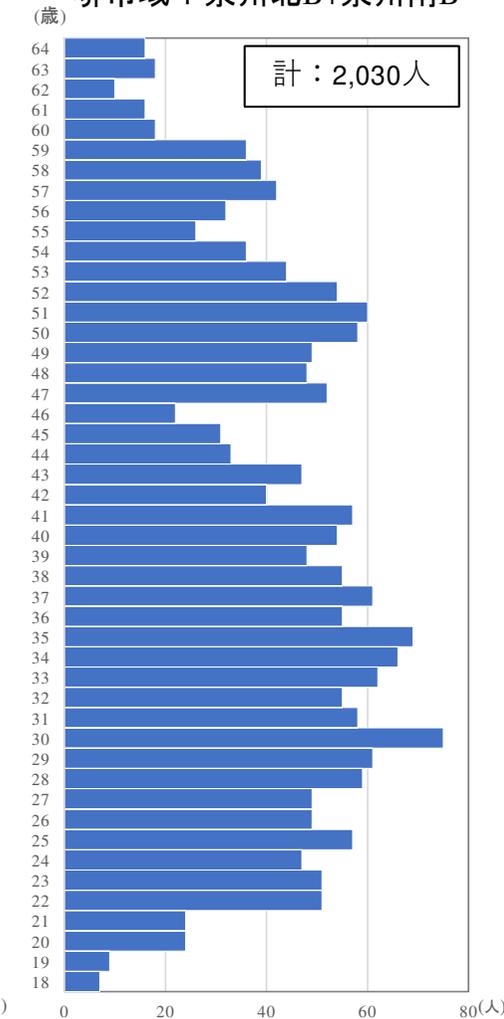


泉州南B



【広域化後】

堺市域+泉州北B+泉州南B



(出典) 令和5年度消防防災・震災対策現況調査(第02表：年齢別及び階級別消防吏員数)より作成